

平成23年度事業報告(案)

1. 会勢報告

{ 総務担当：八田 一利、外山 みどり }

【総 数】

(単位：人)

会 員	平成23年4月1日	平成24年3月31日	新 入 会 員	退 会 者	増 減
		1,849	1,811	64	102

会員資格

変更

正会員:	1,721	1,693	49	84	-35	+7
準会員:	128	118	15	18	-3	-7

【内 訳】

(単位：人)

支 部	平成23年4月1日	平成24年3月31日	新 入 会 員	退 会 者	増 減 () : 支部間の移動
北 海 道	49	48	1	2	-1(0)
東 北	63	61	0	1	-1(-1)
関 東	1,044	1,015	37	64	-27(-2)
東 海	162	168	7	6	+1(+5)
関 西	311	297	9	17	-8(-6)
中国・四国	126	127	7	6	+1(0)
九州・沖縄	77	78	3	6	-3(+4)
国 外	17	17	0	0	0(0)
賛 助 会 員	36社 37口	34社 35口	1社 1口	3社 3口	-2社 -2口

2. 事業報告

{総務担当:八田 一利、外山 みどり}

平成23年度は、一般社団法人日本人間工学会第2期(平成22年6月～24年6月)の2年目として従来の活動を継続したほか、東日本大震災への対応として、被災会員の年会費免除、緊急意見交換会の開催、仙台で開催された関連学会への積極的な支援等を行った。また、新たに臨時委員会として、ウェブアクセシビリティ支援委員会と選挙管理委員会を設置し、選挙管理委員会は第3期の役員及び代議員選挙を実施した。このほか、事業内容の見直しや著作権規程の制定、理事会運営規程と投稿規程の改定、賛助会員特典の見直し等、制度の整備を行った。また、理事会が藤田祐志氏をIEAの新役員候補者として推薦した結果、平成24年2月のIEA理事会で藤田祐志氏が財務担当のIEA副会長に選出されたことが特記される。

- (1)平成23年定時社員総会を平成23年6月6日に早稲田大学において開催し、平成22年度事業報告・収支決算、平成23年度事業計画・収支予算、名誉会員推薦について審議し、決定した。
- (2)第52回大会を河合隆史大会長のもと、平成23年6月6～7日に早稲田大学で開催し、学会企画シンポジウム「世界をリードする人間工学アクセシビリティ規格」を企画した。併せて第13回日韓ジョイントシンポジウムを開催し、懇親会において日韓交流の韓国側の貢献に感謝し功労者3名を表章した。また第53回大会を柄原裕大会長のもと平成24年6月9～10日に九州大学にて開催することを決定し、学会企画シンポジウムについて検討した。
- (3)東海支部の協力を得て、10月29日に初めて東海地域(三重県立看護大学)にて公開講座2011「人間工学を社会の常識に！」を開催した。
- (4)平成23年度日本人間工学会功労賞(アーゴデザイン部会)、大島正光賞(1件)、研究奨励賞(2件)、優秀研究発表奨励賞(5件)の表彰を行った。
- (5)理事会を平成23年5月7日、6月5日、9月7日、12月17日、平成24年3月6日の計5回開催した。
- (6)機関誌「人間工学」の第47巻2～6号及び第48巻1号の計6冊を発行した。
- (7)人間工学専門家認定機構において、各種の専門家資格の試験を実施した結果、認定試験(A方式試験)合格者1名、筆記試験免除条項を適用した資格認定試験(B方式試験)合格者2名、準専門家合格者15名を新たに得た。その結果、平成23年度末現在の認定人間工学専門家は166名、準専門家91名、アシスタント14名となった。このほか、定期総会、講演会、シンポジウム、セミナーを開催し、会報を4回発行した。IEA2012(ブラジル)の特別セッションで日本の認定制度と相互認証について報告した。
- (8)以下の常設委員会・担当及び臨時委員会・担当において各事業を積極的に進めた。

8-1)広報委員会

学会内外での通常の広報活動のほか、学会のウェブページの内容と機能をさらに充実させ、表彰委員会、人間工学専門家認定機構と連携しグッドプラクティス表彰制度を整備した。また、新しい試みとして公開講座2011の映像配信を行った。

8-2)編集委員会

学会誌の定期発行と内容の充実、編集委員会の開催、委員会HPの更新、投稿規程改定のほか、査読要領や様式の見直しを行った。なお、本年度は投稿論文72編を受け付け、年度内に査読を終了した論文は44編、うち採択されたのは20編(採択率45.5%)であった。

8-3)国際協力委員会

IEA理事会(4月2～3日、グラハムスタウン(南アフリカ)、平成24年2月11～12日、レシフェ(ブラジル))、Asia Ergonomics Summit(10月5日、新竹(台湾))に出席したほか、第13回日韓ジョイントシンポジウム(6月6日、早稲田大学)の企画・運営に携わり、併せて日韓交流への韓国側の貢献に対して表彰の準備を行った。

8-4)ISO/TC159国内対策委員会

FDIS、DIS等の規格原案に関する計43件の投票を行うとともに、国内委員会を開催し(全体会議4回、分科会14回)審議を行った。また、国際会議出席(33回、のべ185名出席)などによって5件の新ISO規格の発行に寄与した。

8-5)表彰委員会

平成23年度大島正光賞、研究奨励賞、功労賞、優秀研究発表奨励賞の授与を行った。また国際協力委員会と協力し、日韓シンポジウムの功労者に対する表彰を行った。平成24年度各賞及び新設の日本人間工学会論文賞の選考

を行うとともに、広報委員会と連携し人間工学グッドプラクティス賞を新設し、選考システムの整備を進めた。

8-6)安全人間工学委員会

平成23年5月23日付で「福島第一原子力発電所事故の調査と責任追及について～事故から最大限の教訓を得るために～」と題する声明文を発出し、学会と部会のホームページに掲載、さらに英訳版をIEAのホームページに掲載した。また、安全人間工学研究部会が主催、共催する研究会の企画・立案・実施に携わった。

8-7)日本学術会議担当

日本学術会議からの情報の学会ホームページへの掲載、安全工学シンポジウム2011(7月7～8日、日本学術会議)開催への協力等により、日本学術会議との連携強化、関連学術団体との連絡及び協力を進め、人間工学の普及に努めた。

8-8)横断型基幹科学技術研究団体連合担当

横断型基幹科学技術研究団体連合第4回コンファレンス(11月28～29日、石川)の企画への参加のほか、当学会の担当者が編集副委員長となり、会誌「横幹」の編集、発行を行った。特に第5巻第2号では「信頼性工学における横幹的取り組み」、第6巻第1号では「横幹的活動としての「タイムアクシス・デザイン」」を特集した。

8-9) ウェブアクセシビリティ支援委員会

IEAのウェブサイトのリニューアルの条件や経費の検討を行い、ウェブサイトの運営費のIEAの負担についてIEA会長と交渉を行った。

8-10)薄型テレビの視聴に関する人間工学ガイドライン検討委員会

「薄型テレビの人間工学設計ガイドライン」(日本語・英語)を学会のホームページに公開し、フラットパネルディスプレイの人間工学シンポジウム2012(3月9日、JES協賛)にて紹介した。委員会活動は本年度をもって終了するが、今後は作成メンバーにより国内外に向けてガイドラインの積極的な普及に努める。

8-11)国際人間工学連合PSE担当

IEAのPS&E委員会を運営し、IEA常任委員会(EC)のメンバーとしてIEAの規則改定に携わった。また、2回のEC会議やCouncil会議(ブラジル・レシフェ)に出席した。こうした活動を通して、人間工学専門家制度の相互認証、グッドプラクティスデータベースの教育応用、人間工学教育プログラムの一覧作成に取り組んだ。

8-12)子どもの人間工学委員会

メーリングリストを作成し意見交換を行ったほか、第52回大会にて「少子超高齢社会における子ども人間工学の課題」、関東支部第41回大会にて「子どものための人間工学」と題する企画セッションを開催し、要約をホームページに公開した。

8-13)研究倫理審査検討委員会

学会内に研究倫理の審査機関を設置することの是非について検討した結果、学会としては定期的に研究倫理指針をリバイス等しながら、研究や実験実施における倫理的配慮の必要性を大学、公設試験研究機関、企業等に啓蒙し、倫理審査に関する種々の助言を行う等の社会貢献を行うことが適当である旨、理事会に答申した。

8-14)ニーズ対応委員会

広報委員会と連携を図り、新たなコンテンツの掲載、大学公開講座への出前講座、東海支部研究大会プログラム「企業との架け橋2011」運営支援などの活動を通して人間工学の普及に努めた。また、国際人間工学連合(IEA)PSE委員会にて検討を進めている、グッドプラクティスデータベース(GPDB)IEA版の作成を支援した。

8-15)企業の人間工学教育のあり方検討委員会

中小企業における製品やサービスの設計開発を支援する仕組みを造り運用したほか、人間工学普及のため、中小企業に委員を直接派遣しての支援や、Webサイトを活用した遠隔地への支援活動を行った。成果を踏まえ、第53回大会にてシンポジウム「設計・改善活動など人間工学の実践とビジネスへの貢献」を企画している。

8-16)テレワークガイド委員会

関連団体や有識者と交流し、テレワークの現状や課題などを理解や共有を目的に、第52回大会においてシンポジウム「テレワークの健全な発展へ向けての人間工学の役割」を開催した。また、日本オフィス学会誌第3巻第1号(2011)にテレワークに関連した人間工学関連の取り組みの必要性を紹介した。

8-17)選挙管理委員会

第3期(平成24～25年度)の代議員および役員選挙を滞りなく実施した。

8-18)文科省科研費担当

ニーズ対応委員会と協同で実施した科研費への学会員応募実績や分科細目表に関するアンケート調査結果、大学等での人間工学教育と研究実績に関する根拠データを添付した「系・分野・分科・細目表」改正へ向けた提案書を(独)日本学術振興会へ提出し、現在、学術システム研究センターで検討が行われているところである。

8-19)第52回大会担当

「みんなの人間工学、最先端の人間工学」をテーマとする第52回大会(河合隆史大会長・早稲田大学)を6月6~7日開催し、学会企画シンポジウム、2件の特別講演、6件の公募シンポジウム、日韓シンポジウム、ハイブリッド発表36件、口頭発表78件の一般発表、機器展示、懇親会等を行い約450名の参加者を得て盛会であった。

(9)支部、部会

北海道、東北、関東、東海、関西、中国・四国、九州・沖縄の計7支部と、医療安全研究部会、衣服人間工学部会、触覚インタラクション研究部会、航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、感性情報処理・官能評価部会、看護人間工学部会、情報社会人間工学研究部会、聴覚コミュニケーション部会、安全人間工学研究部会、3D人間工学研究部会、システム大会部会の計12研究部会が、多彩な活動を行った。

(10)関連学術団体等と、44件の共催・協賛・記事掲載等を行った。

(11)学会事務局では、管理業務の見直しを行い一層の効率化と経費節減を図った。また、学会誌や大会講演集のJ-Stageへの公開を進め、学会HPにおいても迅速な情報提供に努めた。

3.委員会・担当活動

[常設委員会・担当]

3-1.広報委員会

{委員長：吉武 良治、副委員長：下村 義弘}

平成23年度もニーズ対応委員会等と連携し、事業計画に掲げた活動を中心に、積極的に広報活動を行った。特に平成22年に全面的にリニューアルオープンしたウェブページに関して、運用プロセスの整備、機能追加、コンテンツ追加などを段階的に推進した。主な活動は以下の通り。

- (1)平成19年度に開設したグッドプラクティスデータベース(GPDB)に関しては、積極的に広報、募集、維持・管理を継続し、普及を推進した。2012年3月にGPDBサイトのシステム化を完了し、ソート機能・フィルタ機能を実装、4つの部門を横断的に扱うことができるようになっている。
- (2)GPDB関連では、表彰委員会、人間工学専門家認定機構と連携し、グッドプラクティス表彰制度を整備し、表彰のための準備・選考等を推進した。本表彰制度は、通称「専門家100名が選んだ人間工学GP賞」と呼び、認定専門家の投票が必要となったため、投票するためのサイトを表彰委員会と連携して製作した。
- (3)企業との架け橋2011「公開講座」(2011年10月29日に三重県立看護大学にて開催)を支援し、USTREAMにて映像配信を行った(アーカイブされており現在も視聴可能)。
- (4)JES学会ウェブサイトのセキュリティ対策に対する検討を行った(IEAウェブサイトハッキング事件を受けての検討実施)。
- (5)ニーズ対応委員会と連携し、JESウェブページリニューアル(第2段階、3段階)の活動を実施した。主要な例を以下に示す。
 - ・「企業との架け橋」企画のページを開設し、案内や過去の実績等を紹介した。
 - ・人材データベースを構築し、プロトタイプにて試験を実施、本格的運用へ向けての準備を推進した。
- (6)ホームページを活用し、重要ニュースのお知らせ、学会主催/協賛等のイベントの案内などを広報した。以下に掲載ニュース例を示す。
 - ・福島第一原子力発電所事故の調査と責任追及について~事故から最大限の教訓を得るために~:安全人間工学委員会声明(和文と英文にて掲載)

- ・本学会に関連した学術会議情報、横幹連合情報などの掲載
- ・「薄型テレビの人間工学設計ガイドライン」の掲載（和文と英文にて掲載）
- ・「人間工学 ISO/JIS 規格便覧 2011」の掲載

3-2. 編集委員会

{委員長：小松原 明哲、副委員長：三澤 哲夫}

(1) 学会誌「人間工学」の編集・発行状況

- 1)平成 23 年 4 月：第 47 巻 2 号(28 ページ)
原著 1 編、短報 3 編 他
- 2)平成 23 年 6 月：第 47 巻 3 号(36 ページ)
原著 2 編、技術報告 1 編、紹介コーナー 1 編 他
- 3)平成 23 年 8 月：第 47 巻 4 号(50 ページ)
総説 1 編、原著 2 編、短報 2 編、学術集会参加報告 2 編 他
- 4)平成 23 年 10 月：第 47 巻 5 号(64 ページ)
原著 5 編、短報 1 編、資料 1 編 他
- 5)平成 23 年 12 月：第 47 巻 6 号(45 ページ)
原著 4 編、学会イベント報告 1 編、学術集会参加報告 1 編 他
- 6)平成 24 年 2 月：第 48 巻 1 号(50 ページ)
原著 3 編、短報 2 編、資料 1 編、書評 他

(2) 編集委員会の開催

奇数月に編集委員会を開催し、必要に応じて偶数月には電子編集委員会を開催した。

(3) 投稿数および査読者数

投稿された原稿数とそれに対する査読依頼者数は以下のとおりであった。平成 23 年度の投稿総数は 72 編、査読者数は 160 名であった。

- 1)平成 23 年 5 月(第 2 期第 6 回委員会 前年度の受付分を含む)
投稿数 12 編(原著 7 編、短報 4 編、資料 1 編)：査読依頼者数 22 名
- 2)平成 23 年 7 月(第 7 回委員会)
投稿数 9 編(原著 7 編、短報 2 編)：査読依頼者数 22 名
- 3)平成 23 年 9 月(第 8 回委員会)
投稿数 17 編(原著 15 編、短報 1 編、資料 1 編)：査読依頼者数 34 名
- 4)平成 23 年 11 月(第 9 回委員会)
投稿数 10 編(原著 7 編、短報 3 編)：査読依頼者数 24 名
- 5)平成 24 年 1 月(第 10 回委員会)
投稿数 12 編(原著 11 編、短報 1 編)：査読依頼者数 31 名
- 6)平成 24 年 3 月(第 11 回委員会)
投稿数 12 編(原著 9 編、短報 3 編)：査読依頼者数 27 名

(4) 学会誌に掲載する情報の充実

第 1 期からの継続として、研究部会に対して当該領域の「総説」を勧誘した。また、本学会各組織の主催する「学会イベント報告」を掲載することとした。

(5) 編集委員会のホームページ更新

第 2 期編集委員会のホームページを更新した。投稿用紙はホームページ内の編集委員会ページよりダウンロードできる各種電子版書式を掲載した。

(6) 査読期間の短縮

迅速な査読を心掛けるため、平成 16 年 10 月(第 16 期編集委員会)から続けている副査の査読期間短縮(従来

1ヶ月であったものを2週間に短縮)を継続した。なお、投稿原稿の受付から掲載可となった期間は最短で3ヶ月(短報)その平均は6~7ヶ月(前年度は6~7ヶ月)であった。

(7)投稿原稿の採択率

第2期編集委員会が平成23年度に受付けた投稿原稿は72編で、採否の結果がでた投稿原稿44編のうち、採択されたのは20編(採択率45.5%)であった。なお、筆頭著者が学会員の投稿原稿51編中、採否の結果がでた投稿原稿32編のうち、採択されたのは15編(採択率46.9%)で、筆頭著者が非学会員の投稿原稿21編中、採否の結果がでた投稿原稿16編のうち、採択されたのは5編(採択率31.3%)であった。

(8)その他

1)著作権利用

学会誌に掲載された論文等の著作権の利用等については、学会著作権規程制定にともない、理事会取り扱い案件となった。これに伴い投稿規程を一部改正した。

2)審査要領の整備

査読者に対する審査要領、審査様式の文言の見直しを行った。

3-3. 国際協力委員会

{委員長:堀江 良典、副委員長:小谷 賢太郎}

(1)IEA理事会

・平成23年4月2日~4月3日 グラハムスタウン(南アフリカ)

学会から鳥居塚委員・藤田委員が出席。冒頭、ニュージーランドならびに日本で発生した震災に対しての追悼のメッセージから会議が始まり、JESとして関係各位から寄せられたお見舞いに対してお礼を述べた。

・平成24年2月11日~2月12日 レシフェ(ブラジル)

学会から堀江委員長・藤田委員が出席。Jan Dulを中心(小谷副委員長もメンバーとして参加)にまとめられたFuture of Ergonomics White Paperを若干の修正の後、承認。

(2)委員会開催

担当理事による会合を4回開催。その他E-mailによる緊密な連絡を実施

(3)理事会審議・報告

IEA PSE委員長:藤田祐志氏への国際協力委員会としての協力、IEA三役選挙への藤田祐志氏の推薦など

(4)国際交流

・第13回日韓ジョイント・シンポジウム、早稲田大学、東京:平成23年6月6日

ESK関係者9件、JES関係者9件、計18件発表。懇親会において、斉藤理事長より大韓人間工学会ジョン・イスン会長、国際担当のミン・ピンチャン先生、イ・ヨンスク先生へ日韓の人間工学学術交流への貢献を称え表彰状が贈呈された。

・Asia Ergonomics Summit、Hsinchu, Taiwan:平成23年10月5日

堀江委員長が参加し、アジアにおける人間工学の問題点を討議。その後、開催されたThe 2nd East Asia Ergonomics Federation SymposiumにおいてJESとIEAならびにアジアとの関係について基調報告。

(5)国際活動関連記事

第47巻3号 2011年IEA理事会参加報告(鳥居塚 崇、藤田祐志)

第47巻4号 第13回日韓共同シンポジウム開催報告(キム・サンヒョン、堀江良典)

第47巻4号 第4回レジリエンスエンジニアリング・シンポジウム参加報告(狩川大輔)

第47巻6号 The 2nd East Asia Ergonomics Federation Symposium参加報告(小谷賢太郎)

3-4 . ISO/TC159国内対策委員会

{委員長：横井 孝志、副委員長：吉武 良治}

(1)委員会開催、国際会議出席状況

- ・国内委員会:全体会議4回、分科会14回
- ・国際会議出席状況:33回の国際会議に延べ185名出席

(2)発行規格、投票

<新ISO規格>:5件

- ・ISO 26800:2011 Ergonomics -- General approach, principles and concepts
- ・ISO 9241-303:2011 Ergonomics of human-system interaction -- Part 303: Requirements for electronic visual displays
- ・ISO 9241-420:2011 Ergonomics of human-system interaction -- Part 420: Selection of physical input devices
- ・ISO 9241-910:2011 Ergonomics of human-system interaction -- Part 910: Framework for tactile and haptic interaction

- ・ISO 24503:2011 Ergonomics -- Accessible design --Tactile dots and bars on consumer products

<投票> : FDIS7件、DIS 4件、CD 4件、SR 16件、NWIP 5件、WD0件、その他7件

(3)分科会活動

- ・SC1(人間工学の一般原則)&WG 主査:青木和夫 分科会0回開催(メール審議のみ)
- ・SC3(人体寸法と生体力学) &WG 主査:横井孝志 分科会2回開催
- ・SC4(人間とシステムのインタラクション) &WG&SG 主査:山本 栄 分科会2回開催(他はメール審議)
- ・SC5(物理的環境の人間工学) &WG&SG 主査:梶原 裕 分科会4回開催
- ・TC159/WG2(特別な配慮を必要とする人々のための人間工学) 主査:佐川 賢 分科会2回開催
- ・JIS 分科会 主査:米村俊一 分科会4回開催

3-5.表彰委員会

{委員長：阿久津 正大、副委員長：矢口 博之}

(1)委員会開催状況

委員会を4月28日(電子メール委員会)、6月6日、6月27日(電子メール委員会)、8月26日、11月29日、3月21日に開催した。そのほか随時電子メールで討議を進め、下記について活動を行った。

(2)活動内容

1)人間工学グッドプラクティス賞の新設について(広報委員会との連携事業)

- ・人間工学の研究成果を応用したものづくり、人間工学の研究成果を踏まえた社会活動における優れた業績を表彰し、人間工学とその研究成果を広く社会全般に普及させることを目的とした「人間工学グッドプラクティス賞」の選考及び授与規程案、同賞の選考及び授与規程細則案を策定し、理事会に上申した(人間工学グッドプラクティス賞選考及び授与規程、同細則は、第13回理事会 2011年12月17日 で承認、同日付で施行)。
- ・同賞の受賞候補案件の選考システムの整備を進めた。

2)大島正光賞について

- ・平成23年定時社員総会において、平成23年度大島正光賞受賞者に対する授与式を行った。受賞論文は、「乳幼児の環境誘発行動を予測する計算モデルの開発(筆頭著者:野守耕爾氏、共著者:西田佳史氏、本村陽一氏、山中龍宏氏、小松原明哲氏)」であった。

3)日本人間工学会論文賞について

- ・新設された日本人間工学会論文賞について平成24年度受賞候補論文を選考し、選考結果を理事会に上申した。

4)日本人間工学会研究奨励賞について

- ・平成23年定時社員総会において、平成23年度研究奨励賞の授与式を行った。受賞論文は、「前腕切断者を対象とした筋電位信号に基づく手の動作識別法に関する基礎的研究(筆頭著者:吉川雅博氏、共著者:三田友記氏、

三河正彦氏、田中和世氏)」と「多様な事務作業に適した連動二段機の開発(筆頭著者：高橋卓也氏、共著者：山崎信寿氏)」であった。

- ・平成 24 年度研究奨励賞について受賞候補論文を選考し、選考結果を理事会に上申した。
- 4) 日本人間工学会功労賞について
 - ・平成 23 年定時社員総会において、平成 23 年度(第 4 回)日本人間工学会功労賞受賞者(アーゴデザイン部会)に対する授与式を行った。また平成 24 年度(第 5 回)功労賞の受賞候補者を選考し、理事会に上申するとともに表彰の準備を進めた。
- 5) 日本人間工学会優秀研究発表奨励賞について
 - ・第 52 回大会において平成 23 年度優秀研究発表奨励賞の受賞者を選考し、理事会に上申した。また受賞者 5 名に賞状を授与した。
 - ・第 53 回大会での研究発表者が受賞対象となる平成 24 年度優秀研究発表奨励賞の広報と選考準備を進めた。
- 6) 日韓シンポジウム功労者表彰について
 - ・日韓シンポジウム功労者に対する表彰準備を進めた。第 52 回大会の懇親会時に功労者 3 名(Eui-Seung Jung 氏、Byung-Chan Min 氏、Young-Suk Lee 氏)を表彰した。
- 7) 国際表彰に関して、国際協力委員会と連絡を密にして IEA からの推薦依頼について対応した。また国際協力委員会と表彰委員会の合同 WG を立ち上げ、本学会 HP で各種アワードの紹介・推薦募集等の広報活動及び本学会が候補者を積極的に推薦できる仕組みについて検討を進めた。
- 8) 表彰委員会 HP の開設準備を進めた。

3-6. 安全人間工学委員会

{委員長：芳賀 繁、副委員長：首藤 由紀}

- (1) 平成 22 年度に引き続き、青木(日大)・小松原(早大)・佐相(電力中央研究所)・首藤(社会安全研究所)・中西(慶應義塾大)・芳賀(立教大)の 6 人の委員で活動した。
- (2) 平成 23 年 5 月 23 日付で「福島第一原子力発電所事故の調査と責任追及について～事故から最大限の教訓を得るために～」と題する声明文を発出し、学会および部会のホームページに掲載した。その後それを英訳したものが IEA ホームページのトップページに掲載された。
(http://www.iea.cc/upload/JES_safety_fukushima.pdf 平成 24 年 4 月 8 日現在も掲載中)
- (3) 安全人間工学研究部会が主催、共催する研究会の企画・立案・実施に携わった。なお、平成 23 年 12 月より、研究会に関する主な業務は鳥居塚(日大)・中西(慶應義塾大)・吉村(海技研)に引き継いだ。

3-7. 日本学術会議担当

{担当:大須賀 美恵子、芳賀 繁、青木 和夫}

- (1) 日本学術会議との連携の拡充
 - 日本学術会議から発信される情報は適宜日本人間工学会の HP に掲載し、連携強化に努めた。
- (2) 日本学術会議主催の安全工学シンポジウムへの協力
 - 安全工学シンポジウム 2011(幹事学会:安全工学会、2011 年 7 月 7 日、8 日、日本学術会議)の実行委員会に参加し開催に協力した。
 - 特別講演「東日本大震災と日本学術会議」広渡清吾(日本学術会議)
 - 「はやぶさ探査機の地球 - 小惑星間往復動力航行」國中 均(宇宙航空研究開発機構)
 - 「人工物複雑化とものづくり」藤本隆宏(東京大学)
 - パネルディスカッション
 - 「安全の構築に向けて - 東日本大震災によりあきらかになった課題と安全再構築の視点」
 - 「プロセス産業の安全におけるトップマネジメントの役割」

「ものづくりと安全知の発信」
オーガナイズドセッション 15 セッション
一般セッション 57 題

3-8. 横断型基幹科学技術研究団体連合担当 {担当:青木 和夫、加藤象二郎、酒井 一博、山本 栄}

(1) コンファレンス

横断型基幹科学技術研究団体連合第4回コンファレンス(2011年11月28~29日、石川)の企画に参加した。

(2) 会誌「横幹」の編集

会誌「横幹」第5巻第2号(ミニ特集「信頼性工学における横幹的取り組み」)、第6巻第1号(ミニ特集「横幹的活動としての「タイムアクシス・デザイン」」)の編集と発行を行った(編集副委員長:青木和夫)。

3-9. 人間工学専門家認定機構

{機構長:青木 和夫 副機構長:福住 伸一}

(1) 会員状況(2012年3月31日現在)

人間工学専門家 166 名(H23 年度 資格取得者 7 名、退会者 2 名)

準専門家 91 名(H23 年度 資格取得者 25 名、退会者 1 名)

人間工学アシスタント 14 名(H23 年度 資格取得者 8 名)

(2) 資格認定試験実施状況

資格認定試験(A方式試験)を1回実施、受験1名、合格1名であった。また、筆記試験免除条項の適用(B方式試験)を年1回実施、受験3名、合格2名。準専門家に応募15名、書類審査に15名が合格。人間工学アシスタントに応募8名、書類審査に8名が合格。

(3) 定期総会・講演会の開催

総会 日時:2011年4月22日(金) 14:00~14:30

会場:中央大学駿河台記念館 320号室(講演会、意見交換会も同じ)

出席者:19名、委任状:79名

講演会 日時:2011年4月22日(金) 14:30~15:15

講演:申 紅仙(常盤大学 人間科学部) 演題:「自然災害と人間工学」

緊急意見交換会「今、人間工学専門家と日本人間工学会は何をすべきか」

日時:2011年4月22日(金) 15:30~17:00

(4) 幹事会の開催

第27回 日時:2012年3月14日(水) 17:00~19:00

会場:日本大学理工学部駿河台5号館590会議室

(5) 再認定の促進

専門家資格の再認定の必要な会員に対して積極的にはたらきかけを行い、再認定申請に必要な条件を満たすための条件を131名がクリアした。

(6) シンポジウムの開催

日本人間工学会第52回大会(東京)においてシンポジウム「人間工学専門家の役割と実践」を行った。

(7) 機構ホームページのリニューアルに向けて準備を開始した。

(8) CPE セミナーの開催

日時:2011年11月25日(金) 15:30~18:00

会場:パナソニック電工株式会社門真本社 品質評価棟内

(9) 会報作成

会報を4回発行した。

(10) IEA2012での発表

2012年2月12～16日にブラジルにおいて開催されたIEA2012のCPEに関する特別セッションで藤田幹事が日本の認定制度と相互認証についての発表を行った。

[臨時委員会・担当]

3-10. ウェブアクセシビリティ支援委員会

{委員長:青木 和夫}

- (1) IEAのウェブサイトのリニューアルの条件を検討した。
- (2) リニューアルに必要な経費について数社より見積もりを取り検討した。
- (3) ウェブサイトの運営費のIEAの負担額についてIEA会長と交渉を行った。

3-11. 薄型テレビの視聴に関する人間工学ガイドライン検討委員会

{委員長:窪田 悟}

(1) 委員会開催

本年度に入ってから3回の委員会(5月9日、9月12日、11月21日)を開催した。また、Eメールによる審議を随時実施した。

(2) 活動内容

上記3回の委員会とEメールによる審議を経て、「薄型テレビの人間工学設計ガイドライン」全50ページを作成した。12月の学会理事会での承認を得て、年明けの1月に学会のホームページにおいて本ガイドラインを公開した。英語版も作成し、いずれも無償で学会のホームページからダウンロードできるようにした。

3月9日に開催されたフラットパネルディスプレイの人間工学シンポジウム2012(電子情報技術産業協会主催、日本人間工学会協賛、参加者約100名)において、「薄型テレビの人間工学設計ガイドライン」という演題で委員長が1時間の講演をおこない、主にディスプレイ技術者に向けて本ガイドラインを紹介した。また、6月9日の第53回大会における学会企画シンポジウム「最近のディスプレイ技術を巡る人間工学」においても本ガイドラインを紹介する予定である。

海外向けには、まず、6月にボストンで開催されるSID(Society for Information Display)2012において五十嵐委員が本ガイドラインを紹介するとともに、ガイドラインの基になった一部の研究成果を発表する。次に、京都で12月に開催される第19回IDW(International Display Workshops)において久武委員が本ガイドラインの全容を紹介する予定である。

これらの広報活動の予定まで見届けた上で、本年度3月31日をもって本委員会の活動を終了することにした。

3-12. 国際人間工学連合PSE担当

{担当:藤田 祐志}

IEAのPS&E委員長として同委員会の運営を進めた。さらに、IEA常任委員会(EC=Executive committee)のメンバーとしてIEAの規則改定に携わった。また本年度は、次のEC会議およびCouncil会議に出席した。

- ・EC会議(トルコ・イスタンブールおよびブラジル・レシフェ)
- ・Council会議(ブラジル・レシフェ)

本年度は概ね3年毎に開催されるIEA Congressの年に当たり(IEA2012ブラジル・レシフェ) Council会議と2度目のEC会議はIEA2012の直前に、Congressと併せる形で開催された。同Council会議で会長および二人の

副会長(所謂「三役」)が改選され、IEA2012の終了時をもって新三役が職に就いた。この時点でECも解散され、PS&E委員会長の職を解かれた。2年半に及ぶ在職中には、いくつかの国に独立して存在する認定人間工学専門家制度の相互認証、グッドプラクティスデータベースの教育応用、およびIEA加盟国の人間工学教育プログラムの一覽作成に取り組んだ。いずれも相応の成果を得たが、次期ECで引き続き検討を進める必要がある。次期PS&E委員長は新三役によって今後決定される。

3-13. 子どもの人間工学委員会

{委員長:小松原 明哲 副委員長:江川 賢一}

- (1)生活者としての子どもを視座に置いた人間工学の研究課題を議論することを目的とした。
- (2)この領域に関心のある有志からなるメーリングリストを組織し、意見交換を行った。
- (3)企画シンポジウムを開催した。
 第52回全国大会(東京:早稲田大学 2011.6.6.)「少子超高齢社会における子ども人間工学の課題」
 第41回関東支部大会(東京:芝浦工業大学 2011.12.10.)「子どものための人間工学」
 第53回全国大会(福岡:九州大学 2012.6.10.(予定))「子ども人間工学の諸課題」
- (4)ホームページにおいて、企画シンポジウムを要約し公開した。
<http://www.f.waseda.jp/komatsubara.ak/ergochi1d.htm>

3-14. 研究倫理審査検討委員会

{担当:横井 孝志}

学会理事会からの再度の要請により「日本人間工学会内に研究計画の倫理審査委員会を設置し、研究計画の倫理審査体制を持たない企業や大学等の倫理審査を学会が請け負うこと」について、研究倫理審査検討委員会にて再度検討した。

民間企業、大学、公設試験研究機関を含む23の団体の人間工学実験等実施者にも上記に関する意見を聞き、総合的に判断して委員会としては次の結論を学会理事会に答申した。

- (1)「日本人間工学会内に研究計画の倫理審査委員会を設置し、研究計画の倫理審査体制を持たない企業や大学等の倫理審査を学会が請け負うこと」については、日本人間工学会の事業として実施する必要性はない。
- (2)人間工学会としては、定期的に研究倫理指針をリバイス等しながら、研究や実験実施における倫理的配慮の必要性を大学、公設試験研究機関、企業等に啓蒙し、倫理審査に関する種々の助言を行うことで社会貢献すればよい。

3-15. ニーズ対応委員会

{委員長:榎原 毅、副委員長:岩切 一幸}

学会法人化を契機とし、一層の社会的責任を果たすべく、Webサイト等を積極的に活用した人間工学の普及策と情報発信戦略を検討・展開した。主に広報委員会と連携を図り、下記の活動を行った。

*1:広報委員会との連携事業 *2: IEA/PSE 担当との連携事業

(:実施済 :進行中)

カテゴリ	活動内容	達成度
1)人間工学応用の社会への発信	「ピックアップ がんばる人間工学家!」の取材、webコンテンツの掲載*1 産学官民各セクターの人間工学家インタビュー・コンテンツを学会webサイト内に提供(取材5名、掲載済:3名(2011年3月末現在)、本事業の運営は広報委員会へ引き継ぐ。	

	<p>広島市立大学情報科学部公開講座 出前講座 「人間工学研究最前線！」 「高校生による情報科学自由研究(2011年8月22日)」プログラムにおいて、高校生を対象とした人間工学出前講座を実施した。</p>	
	<p>「企業との架け橋2011」 東海支部プログラム 運営支援 企業における人間工学の取り組みや、企業が求めている人材像などについて、ざっくばらんに企業・学生間で意見交換する場を提供する「企業との架け橋2011(JES 東海支部)」企画へ委員を派遣し、運営を支援した。</p>	
	<p>「専門家100名が選んだ人間工学GP賞」投票フォーム製作 表彰委員会、人間工学専門家認定機構、広報委員会連携によるグッドプラクティス表彰制度(通称:「専門家100名が選んだ人間工学GP賞」)に伴う、ウェブ投票サイトの製作を支援した。</p>	
2)産学官民の協同・連携支援	<p>人間工学の領域・人材・組織・事例を繋ぐリレーショナル・データベースの提供*1 人間工学領域から学べる大学リストを検索、企業情報から人間工学応用領域を検索など、GIAP各セクターの情報を横断的・有機的に繋ぐデータベースの仕組みを構築し、本格的運用へ向けて準備を行った。本事業の運営は広報委員会へ引き継ぐ。</p>	2012年中 運用開始予定
3)人間工学研究の促進/交流と活性化策	<p>学術戦略プロジェクトの可能性・展開方法の検討 「学術戦略プロジェクト(通称:温故知新プロジェクト)」より、更なる人間工学領域の研究促進と活性化を図るため、人間工学研究の促進に必要なニーズ分析とその結果に基づく支援方策の検討を行った。本事業の運営は広報委員会へ引き継ぐ。</p>	継続検討中
4)人間工学会の魅力発信	<p>各支部大会講演集(抄録)のPDF公開 各支部講演集PDF版をJESwebサイト内にて提供するプラットフォームを検討した。本事業の運営は広報委員会へ引き継ぐ。</p>	2012年中 運用開始予定
5)国際社会への情報発信	<p>国際人間工学連合/PSE担当の活動支援:IEA版GPDB構築支援*2 国際人間工学連合(IEA)Professional Standards and Education(PSE)委員会にて検討を進めている、グッドプラクティスデータベース(GPDB)IEA版の支援を行った。IEA2012大会でのGPDBに関するスペシャルセッションへの話題提供を行った。</p>	

3-16. 企業の人間工学教育のあり方検討委員会 {委員長:酒井 一博、副委員長:易 強}

- (1)教育実践のさらなる展開として、静岡県工業技術研究所と協力し、中小企業における製品やサービスの設計開発を支援する仕組みを造り運用した。
- (2)人間工学に関する中核人材育成の一助として、中小企業に委員を派遣し、実践的な支援を行う中で、人間工学の知識や考え方を伝える活動を行った。併せて、相談や回答ができるWebサイトを活用し、遠隔での支援も行った。
- (3)産業現場における安全衛生に関わる人間工学プログラムの開発に努め、教材化への足掛かりとして各委員のネットワークにおいて実践を重ねた。

- (4)3年間の委員会活動の実績を踏まえ、第53回大会において「設計・改善活動など人間工学の実践とビジネスへの貢献」と題する本委員会主催のシンポジウムを企画した。
- (5)20年度の「企業の人材育成プログラム開発委員会」において作成された報告書をもとに、より実践および普及に適した資料作成に着手した。

3-17.テレワークガイド委員会

{委員長:吉武 良治、副委員長:北島 洋樹}

- (1)日本テレワーク協会など関連団体や有識者と交流し、テレワークの現状や課題などをより深く理解し、本委員会メンバーや学会メンバーと共有することを目的に、第52回大会において、学会外の有識者を招聘し、下記シンポジウムを開催した。ねらいどおり、労働基準法との関連や東日本大震災を含めた事例などを共有することができた。

===== 企画シンポジウム =====

日時： 2011年6月7日(火) 10:00-11:00 (第52回大会)

会場： S会場(早稲田大学国際会議場)

テーマ： テレワークの健全な発展へ向けての人間工学の役割

司会： 北島洋樹(労働科学研究所)

発表1： 「テレワークガイド委員会の活動概要と問題提起」 吉武良治(日本IBM)

発表2： 「テレワークと労働基準法」 中島康之様(社会保険労務士法人)

発表3： 「東日本大震災・計画停電時のテレワーク実施事例」 今泉千明様(日本テレワーク協会)

ディスカッションとまとめ

- (2)テレワーク協会、テレワーク学会のウェブページやFacebookなどを通じて、テレワーク関連の情報収集を行うとともに、委員会メンバーでメールを中心として情報交換を実施した。また、日本オフィス学会誌第3巻第1号(2011)に日本人間工学会の紹介記事を執筆し、テレワークに関連した人間工学関連の取り組みの必要性も紹介した。

3-18.選挙管理委員会

{委員長:堀江 良典}

- (1)委員会日程

第3期(平成24年社員総会~26年社員総会)の代議員および役員選挙を以下の日程で実施した。

- ・平成23年10月1日(土)第1回委員会(通信委員会)
選挙規程確認、有権者および代議員定員数を確認
- ・平成23年10月22日(土)第2回委員会
代議員選挙投票用紙を発送
- ・平成23年11月26日(土)第3回委員会
代議員選挙の開票を行い、代議員当選者へ就任諾否確認書を発送
- ・平成23年12月19日(月)第4回委員会
代議員内定者180名を確認、理事・監事選挙投票用紙を発送
- ・平成24年1月28日(土)第5回委員会
理事・監事選挙の開票、理事・監事当選者へ就任諾否確認書を発送
- ・平成24年2月20日(月)第6回委員会
理事・監事内定者を確認、理事長・副理事長選挙投票用紙を発送
- ・平成24年3月10日(土)第7回委員会
理事長・副理事長選挙の開票、理事長・副理事長当選者へ就任諾否確認書を発送

- ・平成24年3月22日(木)第8回委員会(通信委員会)
理事長・副理事長内定者を確認
- ・平成24年5月18日(金)第15回理事会にて第3期選挙結果を報告

(2)選挙結果

第3期代議員および役員選挙結果は、本社員総会資料(末頁参照)・第3期代議員および役員選挙報告(案)に掲載するとおりである。

代議員選挙、理事・監事選挙、理事長・副理事長選挙における投票状況は以下のとおりであった。

1)代議員選挙の投票状況

支 部	正会員数	代議員定数	投票数	投票率(%)
北海道	47	6	12	25.5
東 北	63	7	21	33.3
関 東	975	98	158	16.2
東 海	152	16	49	32.2
関 西	278	29	47	16.9
中国・四国	121	13	36	30.7
九 州	75	9	23	30.7
総 数	1,711	178	346	20.2

無効票 2

2)理事・監事選挙の投票状況

理事定数	代議員数	投票数	投票率(%)
20	178	128	71.9

無効票 0

監事定数	代議員数	投票数	投票率(%)
2	178	128	71.9

無効票 0

3)理事長・副理事長の投票状況

理事長定数	理事・支部長	投票数	投票率(%)
1	27	24	88.8

無効票 1

副理事長定数	理事・支部長	投票数	投票率(%)
1	27	24	88.8

無効票 1

(3)選挙結果のホームページ掲載について

第3期選挙結果(内定者リストと定員、投票率などの投票状況)を本学会ホームページの選挙管理委員会のページに掲載する。なお、票数は会員以外も見ることに配慮し掲載しない。

3-19. 文科省科研費担当

{担当: 齊藤 進、青木 和夫}

「人間工学」は、文部科学省科学研究費補助金の「系・分野・分科・細目表（平成19年1月改正）」において、生物学及び医歯薬学分野のキーワードとして記載されている。日本人間工学会では、人間工学が本来果たすべき社会的・学術的役割の重要性から、「人間工学」をこれら以外にも分科細目表に採択するよう、学会として積極的に要望することを平成20年11月理事会で決議するとともに、平成21年度の総会において決議し文科省科研費担当を学会内に設置し活動を行ってきている。

平成21年10月には、「人間工学」を、既存の細目では対応できない新たな研究分野として「時限付き分科細目表」へ採択するよう要望書を（独）日本学術振興会へ提出した。また、平成22年度科研費補助金への学会員応募実績や分科細目表に関するWebアンケート調査をニーズ対応委員会と協同で実施した。調査結果を分析し公開するとともに、わが国の大学等における人間工学教育と研究実績に関する根拠データを添付したうえで、平成25年度公募から適用する「系・分野・分科・細目表」改正へ向けた提案書を平成22年8月に（独）日本学術振興会へ提出し、学術システム研究センターで検討が行われているところである。

3-20. 第52回大会 担当

{担当: 河合 隆史}

開催日は、2011年6月6日（月）、7日（火）であった。大会会場は、早稲田大学国際会議場で、懇親会場はリーガロイヤルホテル東京であった。

大会企画シンポジウム「世界をリードする人間工学アクセシビリティ規格」を行った。また、ヘルシンキ大学行動科学部のGöte Nyman教授、ならびに早稲田大学の野呂影勇名誉教授に特別講演をお願いした。さらに一般企画シンポジウムとして、「少子超高齢社会における子ども人間工学の課題」、「テレワークの健全な発展へ向けての人間工学の役割」、「魅力に関わる感性要因と評価指標の提案に向けて」、「立体映像の人間工学 安全性と快適性」、「人間工学専門家の役割と実践」、「これからのHCD（ヒューマンセンタード・デザイン） クラウド・サステナブル・BOP とアーゴデザイン」の計6テーマのシンポジウムを開催した。昨年度より導入されたハイブリッド発表（口頭発表の後、ポスター会場での質疑応答を行う）について、より活発な議論がなされるよう口頭発表時間を5分とした。ハイブリッド発表での発表件数は36件、従来形式の口頭発表件数は78題であった。学会員、協賛学会員、賛助会員、理事、実行委員のみなさんのご支援、ご協力により、全国から約450名の方々にご参加いただき無事終了することができました。大会スタッフ一同心より御礼申し上げます。

4. 支部活動

4-1. 北海道支部

{支部長: 横山 真太郎}

(1) 会議

1) 支部役員会 平成23年7月22日（金）北海道大学工学部

- ・平成22年度 支部事業報告
- ・平成22年度 決算報告並びに監査報告
- ・平成23年度 予算案
- ・平成23年度 支部事業計画案
- ・平成23年度 総会について
- ・平成23年度 支部大会および総会について
- ・その他

(2) 平成23年度支部総会

大会長: 吉成 哲(道総研工業試験場)

日 時: 平成23年11月12日(土)

場 所: JSTイノベーションプラザ北海道 セミナー室

1) 支部総会議題

- ・平成22年度支部事業報告
- ・平成22年度決算報告並びに監査報告
- ・平成23年度予算案
- ・平成23年度支部事業計画
- ・平成24年度北海道支部大会開催について

2) 支部大会

4-2. 東北支部

{ 支部長: 北村 正晴 }

(1) 支部役員会

1) 開催日時: 平成23年2月29日(月)17:30~19:30

2) 会 場: 東北大学未来科学技術共同研究センター 北村研究室

3) 議 題・支部総会について

- ・活動内容の振り返り
- ・支部主催研究会、講演会の企画方針
- ・支部役員選挙の手続き等

(注: 上記以外にも、随時メール審議にて方針確認、役割分担などを決定)

(2) 定時支部総会

東日本大震災の影響を受け、特例としてメール審議で開催

1) 審議期間: 平成23年4月28日~5月13日

- 2) 議 事
- ・平成22年度事業報告および決算報告
 - ・平成23年度事業計画案および事業予算案
 - ・その他

(3) 支部研究会等

・支部研究会23-1

(安全人間工学研究部会、日本認知心理学会安全心理学研究部会と共催)

1) 日時: 平成23年7月24日(土)13時30分~17時00分

2) 場所: 東北大学工学研究科総合研究棟110号室

3) 研究会テーマ「ヒューマンファクターの視点から見た東日本大震災」

話題提供者1: 海上保安学校宮城分校 小林和広氏

話題提供者2: 航空保安大学校 管制科長 稲村直人氏

話題提供者3: 石巻赤十字病院副院長 朝倉徹氏

参加人数: 59名(話題提供者3名を含む)

・支部研究会23-2

1) 日時: 2012年1月14日(土)14:00~17:00

2) 場所: 東北大学工学研究科総合研究棟第二講義室(110号室)

3) 研究会テーマ: 「鉄道事業と地震・津波」

講演1: 「地震・津波への安全対策」~経営管理の視点から

東日本旅客鉄道株式会社 常務取締役 宮下直人氏

講演2: 「現場における安全への取り組み」 ~CS運動の展開~

東日本旅客鉄道株式会社 横浜支社 総務部 安全企画室 副課長 熊谷 宗一 氏

総合討論

参加者数：38名

・支部研究会23-3

- 1) 日時：2012年1月28日（土） 14:00～17:30
- 2) 場所：東北大学工学研究科総合研究棟第二講義室（110号室）
- 3) 研究会テーマ：「電力供給と地震・津波」

講演1： 原子力発電と地震・津波

東北電力 火力原子力本部 原子力部 原子力業務課長 渡邊 義寛氏

講演2： 送変電業務と地震・津波

東北電力 電力流通本部電力システム部 流通運営課長 渡辺 直人氏

講演3： 配電業務と地震・津波

東北電力 お客さま本部配電部 配電運用課長 阿部 克彦氏

総合討論

参加者： 26名

（注：支部研究会の記録はすべて文字起こし版とPPT資料を支部HPに掲載している）

4-3. 関東支部

{支部長:八田 一利}

(1) 第41回関東支部大会

・開催日:平成23年12月10日(土)～11日(日)

・会場:芝浦工業大学豊洲キャンパス

・大会長:大倉典子先生

シンポジウム:1件 企画セッション:4件 一般演題:76題

(2) 支部委員会

開催日:平成23年12月10日(土) 会場:芝浦工業大学豊洲キャンパス

(3) 支部総会

開催日:平成23年12月10日(土) 会場:芝浦工業大学豊洲キャンパス

(4) 卒業研究発表会

・開催日:平成23年12月11日(日) 会場:芝浦工業大学豊洲キャンパス 演題数:43題

・委員長:田宮高信先生

(5) 見学会

・開催日:平成23年9月16日(金) 会場:産業技術総合研究所 デジタルヒューマン工学研究センター

参加者:12名 東日本大震災の影響で中止とした見学会(3月18日予定)を行った。

・開催日:平成24年3月5日(月) 会場:東京地下鉄株式会社研修センター 参加者:20名

(6) ニュースレターの発行:見学会案内(2月)

4-4. 東海支部

{支部長:横森 求}

(1) 平成23年度東海支部総会

平成23年5月14日(土) 名城大学名駅サテライト

特別講演:村本淳子 三重県立看護大学学長 演題「看護学における人間工学の重要性」

(2) 平成23年度日本人間工学会東海支部研究大会報告

- ・開催日時：平成23年10月29日(土) 9:30～20:00
- ・開催場所：三重県立看護大学
- ・大会長：斎藤 真 三重県立看護大学、実行委員長：松岡敏生 (財)三重県産業支援センター
- ・プログラム：
 - ・本研究大会特別講演、(一社)日本人間工学会公開講座、三重県立看護大学公開講座
 - 講師 斉藤 進 (財)労働科学研究所 / (一社)日本人間工学会理事長、
 - 演題「人間工学を社会の常識に」 参加者数 200 名
 - ・学生支援特別企画「企業との架け橋 - 東海支部プログラム -」、参加企業 7 社、参加者数 29 名
 - ・一般演題：42 件、参加者：121 名
- ・懇親会参加者：60 名

(3) 役員会開催(3回開催)

- (1) 第1回役員会 平成23年5月14日(金) 名城大学名駅サテライト
- (2) 第2回役員会 平成23年9月15日(木) 名城大学名駅サテライト
- (3) 第3回役員会 平成23年12月10日(土) 名城大学天白キャンパス
- (4) 第4回役員会 平成24年3月24日(土) 名城大学名駅サテライト

(4) 支部委員、支部長改選

- ・支部会員による支部委員選出、改選支部委員互選による支部長選出。
- ・上記結果を支部総会に報告する。

4-5. 関西支部

{支部長:萩原 啓}

(1) 企画・行事等

1) 見学会&講演会

NEXCO 西日本 吹田道路管制センター (吹田市)

開催日：平成23年11月11日(金)

時間：15:00-17:00 (集合14:30 JR 茨木駅、解散17:10) 参加者29名

交通管制システム説明・施設紹介、見学、意見交換

2) 支部大会

開催日：平成23年12月10日(土)、12月11日(日)

主催：日本人間工学会関西支部、神戸大学

共催：JST ERATO 前中センシングプロジェクト

後援：兵庫県立工業技術センター

場所：神戸大学深江キャンパス

大会長：林 祐司 (神戸大学大学院海事科学研究科 教授)

事務局長：村井 康二 (神戸大学大学院海事科学研究科 准教授)

行事内容：

* 特別講演「シーマンシップと人間工学」

古莊 雅生 氏 (神戸大学大学院海事科学研究科教授 / 海技教育センター長)

* 特別講話 (於 深江丸体験乗船)

矢野 吉治 氏 (神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船深江丸船長)

* 招待企画セッション「ヒューマンセンシングフュージョン」

前中 一介 氏 (兵庫県立大学大学院工学研究科教授 / JST ERATO 前中センシング融合プロジェクト研究統括)

* 企画セッション

OS1 「医療・健康のための知的情報処理」

OS2 「観察工学の深耕」

OS3「アーゴデザイン部会企画セッション：これからのアーゴデザインを考える」

関東支部・関西支部の同時中継を実施

企画セッション4（発表17件） 一般発表9セッション（発表34件）

3) 春季講演会

『日本人間工学会の国際協力活動と国際人間工学連合からみた人間工学の将来』

開催日：平成24年3月24日（土）

会場：京都私学会館

【講師】

堀江良典先生 日本大学生産工学部マネジメント工学科 教授

（日本人間工学会理事・国際協力委員会委員長）

小谷賢太郎先生 関西大学システム理工学部機械工学科 教授

（日本人間工学会理事・国際協力委員会副委員長）

【講演概要】

日本人間工学会（JES）の大きな活動のひとつとして国際協力活動があります。これまでJESがどのような国際活動を行ってきたかを国際人間工学連合（IEA）や近隣諸国に対する活動を振り返り、今後の国際協力活動について紹介します。また、IEAでは現在、オランダのJan Dulを中心に人間工学の将来構想を白書にしてまとめようという動きがあります。昨年12月にJESに送られてきたその白書には現在人間工学という学問領域が抱えている問題点を明確に列挙し、いかにしてそのステークホルダーに対し、高品質の人間工学の価値を創出し、要求に応えていくかを具体的に書き出し、その戦略について紹介しています。この白書を紹介し、現在グローバルな視点で人間工学がどのように認識されているかをJESの国際協力委員の視点でお話しします。

4) 協賛

§ 計測自動制御学会関西支部

・平成23年度講習会 平成23年7月13日（水）大阪科学技術センター

「すぐに役立つ最新画像処理技術の基礎理論と実践テクニック」

デジタル画像処理の初めの一步（徳島大学 寺田賢治氏）

超解像処理技術（東京工業大学 田中正行氏）

動画画像処理による3次元モデル化とカメラ位置推定（奈良先端科学技術大学院大学 神原誠之氏）

拡張現実感とプロジェクタカメラフィードバックによる見かけの制御（山形大学 天野敏之氏）

§ モバイル学会

・モバイルセミナー2011 平成23年12月3日がんこ 平野郷屋敷

厨房と部屋の見学

庭+展示物見学

講演『モバイル機器を用いた外食産業におけるサービス向上』

（がんこフードサービス株式会社 専務取締役 新村猛氏）

・シンポジウム モバイル 12 平成24年3月15日（木）～16日（金）

大阪市立大学 杉本キャンパス

- 時代を開くソーシャルメディアとデジタルネイティブたち -

公開特別講演

・岡田朋之氏（関西大学教授）

モバイルメディア研究事始め - モバイルとソーシャルのあいだに -

・遠藤諭氏（アスキー総合研究所所長）

2011 2012年、激変した日本人のメディアライフ 1万人調査で見るコミュニケーションの「新常識」

特別セッション「震災・災害とモバイル」

一般発表 口頭発表・ポスター発表（セッション：ユーザビリティ、モバイル応用、生理・心理特性、

空間・環境，教育・普及)

§ 光学五学会関西支部連合

・第45回光学五学会関西支部連合講演会 平成24年1月28日(土) キャンパスプラザ京都
「省エネ時代の光源と照明」

講演

照明用白色LED技術の展開と今後の展望

(京都大学大学院人間・環境学研究科 相関環境学専攻 物質機能相関論分野 田部 勢津久氏)

有機EL照明の実用化に向けた高効率・長寿命材料の開発状況

(出光興産株式会社 電子材料部 電子材料開発センター 熊 均氏)

視覚特性に基づく照明応用の考え方とその実践

(立命館大学 情報理工学部 知能情報学科 篠田 博之氏)

住空間における光環境デザインと省エネルギー

(松下進建築・照明設計室 松下 進氏)

(2)会議・総会等

1)第1回企画幹事会

開催日：平成23年 7月 6日(水)

会 場：立命館大阪キャンパス

2)第1回評議員会役員会合同会議

開催日：平成23年12月 10日(土)

会 場：神戸大学

3)第2回企画幹事会

開催日：平成24年 1月10日(火)

会 場：立命館大阪オフィス

4)平成24年度～平成25年度支部長・副支部長・評議員選挙

投票期間：平成24年 1月 17日(火)～ 1月31日(火)

5)選挙管理委員会

開催日：平成24年 2月10日(金)

会 場：京都工芸繊維大学

6)会計監査

開催日：平成24年 3月15日(土)

会 場：大阪市立大学

7)第2回評議員会役員会合同会議

開催日：平成24年 3月24日(土)

会 場：京都私学会館

8)支部総会

開催日：平成24年 3月24日(土)

会 場：京都私学会館

出席者：34名(委任状63名)

9)優秀発表賞授賞式(支部総会時) (当年度支部大会発表の学生・若手研究者が対象)

〔発表者〕

伊藤大介(西日本旅客鉄道株式会社)

〔発表題目〕

「新幹線保守用車「デッドマン装置」のボタン押下手法に関する検討」

〔発表者〕

岡田衣理子(大阪工業大学)

〔発表題目〕

「発達障害児の運動機能改善を目的とした遊びリレーションシステムの開発と評価」

〔発表者〕

川井智広（神戸大学）

〔発表題目〕

「視界制限状態における船舶のレーダーを用いた衝突回避判断に関する調査」

10) その他、評議員会・企画委員会のメール会議を実施

4-6. 中国・四国支部

{ 支部長: 村田 厚生 }

(1) 支部理事会開催

第1回：平成23年11月26日，場所：下関市生涯学習プラザ

第2回：平成24年3月29日，場所：岡山大学工学部

(2) 支部総会開催

平成23年11月26日，場所：下関市生涯学習プラザ

(3) 第44回日本人間工学会中国・四国支部大会を開催（九州・沖縄支部との合同開催）

開催日：平成23年11月26日，場所：下関市生涯学習プラザ

大会長：中村 誠 先生（水産大学校教授）

一般演題：69件（中国・四国：61件），大会参加人数：168名

講演論文集広告掲載企業数：6社

(4) 支部講演会開催

開催日：平成23年11月26日，場所：下関市生涯学習プラザ

講演：「血管内超音波法を用いた高精度動脈硬化診断支援システムの開発」

講師：内野 英治 先生（山口大学大学院教授）

講演：「下関のフグ文化と職人の技」

講師：酒井 一 先生（株式会社酒井商店代表取締役）

(5) 平成23年度支部表彰の実施

支部表彰選考委員 { 農沢隆秀氏(マツダ)，岡久雄氏(岡山大学)，田口豊郁氏(川崎医療福祉大学) } による厳正なる審査を行った。各セッションの座長に推薦された発表論文の中から上記3委員による絶対評価を行った結果，下記の3編が優秀論文として表彰された。

優秀論文賞論文：

講演番号 C304

「Otto Bock 筋電義手操作を目的としたバーチャルトレーニングシステム」

中村豪，村上隆治，芝軒太郎，島圭介，栗田雄一，辻敏夫（広島大学大学院），大塚彰（県立広島大学），陳隆明（兵庫県立リハビリテーション中央病院）

講演番号 C409

「視線入力インターフェースにおける文字入力方法に関する研究」

林和也，村田厚生，早見武人，森若誠（岡山大学大学院）

講演番号 C506

「書字を対象とした眼と手の協応動作の熟練要素抽出に関する研究」

井上紘佑，村田厚生，早見武人，森若誠（岡山大学大学院）

4-7.九州・沖縄支部

{ 支部長:長谷川 徹也 }

(1)第32回支部評議員会

- 1)月 日:平成23年11月26日
- 2)会 場: 下関市生涯学習プラザ
- 3)議 題:平成23年度活動報告と決算
 - ・平成24年度活動計画と予算案
 - ・平成24年度第33回大会について
 - ・次期支部長の選出
次期支部長 和田 親宗(九州工業大学大学院)
 - ・その他

(2)第32回支部総会

- 1)月 日:平成23年11月26日
- 2)会 場: 下関市生涯学習プラザ
- 3)議 題:平成23年度活動報告と決算
 - ・平成24年度活動計画と予算案
 - ・平成24年度第33回大会について
 - ・次期支部長の選出
次期支部長 和田 親宗(九州工業大学大学院)
 - ・その他

(3)第32回九州・沖縄支部大会(中国・四国支部との合同開催)

- 1)月 日:平成23年11月26日
- 2)会 場:下関市生涯学習プラザ
- 3)大会長:中村 誠(水産大学校)
- 4)発表演題数:計69件(九州・沖縄支部からは8件)

特別講演

- 講演1:内野 英治 氏(山口大学大学院 教授)
演題 :血管内超音波を用いた高精度動脈硬化診断支援システムの開発
- 講演2:酒井 一 氏(株式会社酒井商店 代表取締役)
演題 :下関のフグ文化と職人の技

特別企画 :

- フグの捌き・フグ刺しの盛り付けの実演・試食
- 懇親会 : (場所)シーガーデンうさぎ
九州・沖縄支部会員の参加者:21名(支部会員11名、学生10名)

(4)「九州支部第32回大会講演集(九州人間工学 第32号)」の作成

(5)「九州人間工学 第32号」の発送

5.研究部会活動

5-1.医療安全研究部会

{ 部会長:土屋 文人 }

(1)活動目的

昨今多発している医療事故の多くは、医薬品や医療用具と人間との間のインターフェースあるいは人間同士におけるコミュニケーションに問題があると考えられる。臨床で発生した事故あるいはヒヤリハット事例の報

告が外部から参照できるようになった今、その問題解決のために人間工学的観点から医療安全を図る方策を検討することによって、医療安全に寄与することを目的とする。

(2)活動内容及び成果

本年度は平成 24 年 3 月 29 日に「医薬品の使用の安全」シンポジウムを芝浦工業大学豊洲キャンパスにて開催した。これに伴い 2 年間に人間工学会大会、関東支部大会をはじめとして医薬品関連の学会発表等について資料集および CD を作成した。製薬企業は賛助会員になっている場合が多いが、今後とも医薬品関連企業等を対象とした啓発活動を継続して行う予定である。

5-2.衣服人間工学部会

{ 部会長: 高部 啓子 }

(1)活動目的

当部会は、平成 14 年度より「人間と衣服との関係の評価について」をテーマに活動を行ってきた。23 年度は最終年度に当たるので、衣服生産現場、特に製品開発における人と衣服との関係の評価を中心に活動を進め、若手人材の育成も念頭に置き、参加型での勉強会や見学会などを企画し活動することを目的とした。

(2)活動内容

平成 23 年度は、役員会を 3 回、例会 2 回を開催した。活動内容と演題は以下の通りである。

- 1) 第 1 回役員会：平成 23 年 5 月 14 日， 於 文化学園大学
- 2) 第 2 回役員会：平成 23 年 11 月 13 日， 於 文化学園大学
- 3) 第 3 回役員会：平成 24 年 3 月 1 日， 於 府中第一ホテル
- 4) 第 1 回例会

開催日：平成 23 年 9 月 21 日

場 所：文化学園大学

演 題：「ファッションカラーのグローバリズムに必要な視点」

講演者：文化学園大学 教授 大関 徹氏

台風襲来のため急遽中止、大関氏の講演準備に対して謝礼を渡す。

5) 第 2 回例会（見学会）

開催日：平成 23 年 11 月 22 日

見学先：トリンプインターナショナル展示ショールームレセプション会場

内 容：新商品の解説、歴代キャンペーンブラ、紳士物の解説、および製品開発の手順や姿勢

担 当：島崎氏、黒川氏

参加者：部会長以下 21 名

6) 第 3 回例会（見学会）

開催日：平成 24 年 2 月 20 日

見学先：カイハラ株式会社（広島県福山市新市町常 1450）

旭蝶繊維株式会社（広島県府中市府川市 110）

内 容：カイハラ株式会社では、ジーンズができあがるまでの一連の工程を山中に点在する 4 工場をバスで回り見学した。バスでの移動の間に社長の貝原氏が日本での生産、一貫生産について熱く語った。

旭蝶繊維株式会社はワーキングウエアの生産を行っている。展示ルームで各種ワーキングウエアの見学と説明を受け、同所にある縫製工場の見学をした。

(3)成果

- ・第 2 回例会では、実物を見ながらの解説には説得力があった。トリンプでは他社と異なり大量の計測データを分析してというより、着用実験を通しての製品開発に特徴があり、新たな視点を見た思いがした。
- ・第 3 回例会は広島県福山市周辺の見学会であった。カイハラ株式会社では生産の空洞化が顕著な繊維産業にあって、日本での生産にこだわり、繊維から製織に至るまでの一貫生産を行っている。それを実現するために常に新

しい価値を生み出す努力を重ねているという社長のお話であった。また少ない人数で効率的に生産するために人の動きを配慮し、IT 技術を駆使した新工場の設置の話では、そのような面での人間工学の活躍が期待されると感じた。

- ・旭蝶株式会社でのワーキングウエアの見学では、機能性を高めるための様々な工夫を見ることができ、高齢者や子どもの衣服設計への応用が考えられた。もう一つの視点は、ワーキングウエアであってもファッショナルであることが求められているということであった。

(4)問題点

- ・以前から問題点として挙げているが、産学共同で、より衣服人間工学発展のため、さらに議論・検討を進める必要がある。
- ・若手人材の育成も急務である。

(5)展望

- ・今年度のワーキングウエアの見学から、この分野での産学協同研究の可能性を感じた。ものづくりに関わる中小企業等への研究成果の発信を積極的に展開していきたい。
- ・次年度以降も、若手研究者の育成に関わる勉強会を積極的に進めたい。

5-3. 触覚インタラクション研究部会

{ 部会長:山本 栄 }

(1)目的

本研究部会は、人間の触覚を機器やシステムに効果的に活かすことを目指しており、また、部会活動を通して国際交流を進めることも、狙いとしている。2007 年に部会を創設して以降、人間工学会大会、各支部会大会のみならず、関連する国際会議において継続的に特別セッションを設け、国内外での触覚研究のネットワークを広げてきており、今後も人間工学分野における触覚インタラクション研究の発展のために寄与していきたいと考えている。

(2)方法

2012 年 3 月 22 日に、部会研究会を東京理科大学神楽坂キャンパスにて開催し、近年の触覚インタラクションに関する研究の動向と今後の見通しについて、意見交換を行った。また、ISO/TC159/SC4/WG9 において進められている触覚関連の規格の策定についても情報収集を進めている。

(3)成果

部会の創設より 5 年が経過し、5 年間の活動の総括と今後 5 年間のビジョンについて、部会員での合意を形成した。5 年間の主な活動目標として、以下 2 点を挙げる。

1)人間工学会大会、各支部大会でのシンポジウムの開催

触覚インタラクション研究に関して、他分野（ロボット関連や医療関連）に対する人間工学分野での方向性を、どのように見定め、発信していくかを、今後も広く社会に対して展開していきたい。

2)日本での国際会議開催

ISO / 9241 - 900 シリーズの規格化が 5 年程度で進むことを見据えて、今回延長申請する期間である 5 年以内に触覚インタラクションの国際会議を日本で開催したい。

5-4. 航空人間工学部会

{ 部会長:田中 敬司 }

(1)目的

航空人間工学に関する知識の普及および情報の共有化を目的として、本年度は、「事故を未然に防止するために」をテーマとした活動を行った。

(2)方法

上期の活動として例会を開催した。また、下期の活動として施設見学会を行った。概要は以下のとおりである。

1)例会

第93回例会を東京代々木のオリンピック記念青少年総合センターで開催した。本年度のテーマ「事故を未然に防止するために」に沿って特に、進化を続ける電子装備システムの動向についてについて検討した。例会には、59名が参加し活発な議論が行われた。

日時：平成23年7月8日(木) 10:30~16:30

場所：オリンピック記念青少年総合センター（東京・代々木）

午前（トピック）：将来の航空交通システム

午後（テーマ）：事故を未然に防止するために

講演：

- ・ 将来の航空交通システムに関する長期ビジョン（CARATS）とその実現に向けたロードマップ
今村 純 氏（国土交通省 航空局管制保安部保安企画課）
- ・ 衛星航法による新進入着陸システム（GBAS）の安全性保証への取り組み
福島 荘之介 氏（独立行政法人電子航法研究所 通信・航法・監視領域）
- ・ 安全飛行を目的とした電子装備システムの拡充
清水 耕次 氏（全日本空輸株式会社 運航本部グループフライトオペレーション品質企画室技術部）
- ・ 回転翼航空機の安全に係わる装備および訓練
長尾 牧 氏（朝日航洋株式会社 航空事業本部運航統括部運用管理室）

2)施設見学会

平成23年度施設見学会を航空医学実験隊で行った。航空機搭乗員を対象とした、各種訓練装置を見学した。総計30名の参加があった。

日時：平成24年2月28日（火）14:10~16:30

場所：航空自衛隊 航空医学実験隊

内容：航空医学実験隊の紹介

航空医学実験隊訓練部の施設見学（低圧訓練装置、遠心力発生装置、空間認識訓練装置）

3)委員会

本部会の運営に係る方針を決定するために、今年度は2回委員会を開催した。委員会の概要は以下のとおりである。

・第53回委員会

日時：平成23年11月7日（月） 17:00 - 18:00

場所：(財)航空輸送技術研究センター（ATEC）会議室

議題：

- ・ 委員の交代等
- ・ 第93回例会（平成23年7月8日開催）報告
- ・ 航人部会ホームページの修正
- ・ 今年度見学会の準備
- ・ 来年度例会の準備
- ・ 次回委員会

・第54回委員会

日時：平成24年3月16日（金） 16:00 - 17:00

場所：(財)航空輸送技術研究センター（ATEC）会議室

議題：

- ・ 部会長の再任
- ・ 平成23年度会計報告
- ・ 平成23年度事業報告
- ・ 平成24年度事業計画

- ・ 次回例会（第94回）準備

その他、委員会および例会の活動準備等のため、平成23年度は幹事会を3回開催した。

4) ホームページの運営

インターネットホームページにより、非会員も含め多くの関係者に対して航空人間工学への理解・関心を深めることに貢献した。また、例会及び施設見学会の申し込みをホームページから行えるようにしたことで会員の利便性を高めた。

ホームページには過去に開催された例会の講演内容を掲載し、また、抄録集の販売を開始し、例会に出席できなかった会員に対する支援等を行った。

5) 例会資料の電子ファイル化の継続

第93回例会（2011年7月開催）資料をCD-ROMに記録し、これを継続して財団法人日本航空協会の運営する航空図書館に寄贈した。（講演者の承諾は全て得られた。）

(3) 成果及び展望

本年度のテーマ「事故を未然に防止するために」に関して、例会では講演を通して、将来の航空システムへの長期ビジョン（CARATS）、衛星航法を利用した次世代の着陸進入システム（GBAS）、EGPWS等の航空機搭載電子装備、回転翼機の安全装備についての情報を共有した。また、活発な質問や議論により参加者の理解を深めることができ、安全意識等の啓発に寄与したものと推測される。

次年度のテーマ設定については、航空を取り巻く最近の動向を踏まえつつ、会員の興味を引く設定とし、活動を継続・展開することにより、より充実化を図り、当部会の目標である航空人間工学の発展、航空安全の推進に寄与できるものとする。

CARATS : Collaborative Actions for Renovation of Air Traffic Systems、GBAS : Ground-Based Augmentation System、EGPWS : Enhanced Ground Proximity Warning System

5-5. アーゴデザイン部会

{ 部会長: 上田 義弘 }

(1) 活動テーマ:

「次世代のアーゴデザイン活動を探る」

(2) 部会運営と主な活動内容

- ・ 部会員 : 117名(2012年3月31日現在)
- ・ 活動概要 : 2011年度は、シンポジウム2回、コンセプト事例発表会1回、見学会1回、合宿研究会1回、幹事会9回、総会1回、ビジョンデザイン方法論WGセッション9回、ビジョンデザインSIGミーティング1回、テーマ検討WGセッション3回等、様々な活動を実施してきた。以下に主な活動を記す。

1) 第52回日本人間工学会全国大会シンポジウム開催（平成23年6月7日）

於：早稲田大学、参加者数約50名

テーマ：「これからのHCD」 - クラウド・サステイナブル・BOPとアーゴデザイン -

2) コンセプト事例発表会開催（平成23年9月9日）

於：首都大学東京サテライトキャンパス、参加者数66名

論文発表：13件、ポスター発表：17件、加えて「これからのHCD」に関するテーマディスカッションの実施

3) 見学会開催（平成23年11月29日）

見学先：NPO法人あさひミレニアムシティ、参加者数6名

テーマ：「ネットワーク時代のゆるやかなコミュニティによるエコビレッジの取り組み」

4) シンポジウム開催（平成23年12月5日）日本人間工学会関東支部大会・関西支部大会を中継で結ぶ

関東支部大会 於：芝浦工業大学、関西支部大会 於：神戸大学 参加者数両会場合わせて約50名

テーマ：「これからのアーゴデザインを考える」 - 人間の成長、環境の変化、技術の革新、参加型のデザイン

- 5)2011年度合宿研究会In湘南国際村（平成23年3月2日、3日）
 於：湘南国際村センター会議室、参加者数30名
 テーマ：「これからのHCD（ヒューマンセンタードデザイン）とSCD（ソーシャルセンタードデザイン）」
- 6)2011年度部会総会開催（平成23年3月3日）
 於：湘南国際村センター会議室、参加者数30名
 2011年度活動報告及び決算、2012年度活動計画及び予算、新幹事体制、会則の改正等の報告、承認
- 7)独自ドメインによるアーゴデザイン部会ホームページの運用、部会員メーリングネットワークの運用、幹事会メーリングネットワークの運用
- 8)その他の活動：
- ・ビジョンデザイン方法論WG活動中（担当幹事：山崎、早川、柳田、郷、高橋(克)、上田）
 - ・ビジョンデザイン方法論SIG活動中、SIGミーティングを開催、メーリングにて情報提供実施。
 - ・テーマ検討WG活動中（担当幹事：高橋(靖)、山崎、新家、高橋(克)、上田）
- (3)成果：アーゴデザインのこれからの方向性に関して、議論がより具体的な段階に入ることができた。議論を通して、社会がアーゴデザインに求める課題として「SCD（ソーシャルセンタードデザイン）」の言葉が生まれ、HCD（ヒューマンセンタードデザイン）とともに考えるべきテーマとして位置づけられた。また、ビジョン提案型デザイン手法は、新たな方法論として公表できる準備が整った。
- (4)問題点：アーゴデザイン研究の方向として、SCDについてさらに広く、深く議論を展開する必要がある。
- (5)展望：アーゴデザイン研究の中心的課題であるHCDに加えてSCDについて議論を深め、社会環境との関係性を考えたアーゴデザイン研究をさらに発展させたい。また、これまで部会活動の中心的テーマであった「ビジョン提案型デザイン手法」に関して、2012年度での出版を目指す。

5-6. 感性情報処理・官能評価部会

{ 部会長：山下 利之 }

(1)活動目的

当部会の活動目的は、人間の感性情報処理、および官能評価に関わる広範囲の研究領域に携わる研究者が、相互に刺激を与え合う場を作ることである。

(2)手段・方法

その手段として本年度に当部会が取り組んだ方法は、学術講演会の実施、関東支部大会におけるシンポジウムの企画、部会員、特に若手研究者のシステム大会における発表の促進である。学術講演会は「テキストマイニング」をテーマとして、実施した。知能情報ファジィ学会関東支部（第38回大会）21世紀科学と人間シンポジウム（第5回大会）と共催した第20回人間工学会システム大会では、院生、学部生による11件の発表が行われ、若手の研究者の育成に寄与した。

(3)活動内容

1)本年度は「テキストマイニング」をテーマに学術講演会を行った。

学術講演会「テキストマイニングを知る」（平成24年3月29日（木）首都大学東京）

- ・河野康成（立教大学）「テキスト分析の手法と分析」
- ・中山厚穂（首都大学東京）「テキスト分析によるトピック抽出法」

2)第20回人間工学会システム大会への若手研究者の発表を促した。その結果、院生、学部生（大学院進学予定者）による11件の発表があり、若手の研究者育成に寄与した。

(4)成果と問題点

学術講演会では、最近話題になっている「テキストマイニング」を取り上げ、その領域の最先端で活躍している研究者を招いてお話を伺い、活発な議論を展開した。また、システム大会では、積極的に若手の発表を促し、大学院生を中心とする計11件の研究報告があり、若手の研究意識を高める上で効果があったと思われる。

しかし、予定していた日本人間工学会関東支部第 39 回大会における企画シンポジウムが実施できなかった。平成 24 年度はさらに講演会、研究会を増やすと同時に、見学会を行い、部会メンバーの学識を豊かにするとともに、システム大会における若手研究者の発表をさらに増やしていきたい。

5-7. 看護人間工学部会

{ 部会長：樋之津 淳子 }

(1) テーマ

より安全で安楽な根拠ある看護技術や看護器機・用具の開発、QOL の向上に向けた環境の提案、快適な仕事場や住まい、高齢者に優しい環境などの研究成果を発信する。

(2) 手段・方法

1) 第 19 回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会開催

平成 23 年 9 月 3 日(土)に大阪市において森ノ宮医療大学保健医療学部看護学科の村上生美教授が主催した。一般演題の発表、University Siegen の Dr.Strasser による特別スピーチ、岡山県立大学教授 森將晏先生による教育講演「静脈穿刺時に装着する駆血帯の適切な駆血圧について」ならびに株式会社アシックス スポーツ工学研究所 磯部真志先生による特別講演「人体の応答を考慮したシューズ設計」が行われた。

2) 第 20 回システム連合大会への参加

看護人間工学部会からも幹事会として参加している第 20 回システム連合大会は平成 24 年 3 月 18 日(日)に看護人間工学部会が担当した。

3) 「人間工学」誌に部会会員が論文投稿するようよびかけた。

4) 看護人間工学研究誌第 12 巻を発行(平成 24 年 3 月)し、部会員に送付した。

5) ホームページやメーリングリストを活用し、日本人間工学会第 52 回大会への参加を広くよびかけた。

(3) 成果

1) 第 19 回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会

台風にもかかわらず、参加者は約 33 名であった。一般演題 11 題が発表した。教育講演、特別講演、いずれも活発な意見交換が行われた。今後の研究に役立った内容であった。

2) 第 20 回システム連合大会への参加

2 部会に計 5 演題エントリーしていた。

3) 部会会員による日本人間工学会誌への論文投稿

原著論文は投稿がなく、短報が Vol.47 No.5 に 1 編掲載された。

4) 看護人間工学研究誌第 11 巻を発行(平成 24 年 3 月)し、部会員に送付した。

寄稿 2 編、原著 2 編、研究報告 1 編、第 19 回看護人間工学部会抄録などを掲載した。

(4) 問題

1) 看護人間工学部会会員で、まだ日本人間工学会に加入していない会員がいる。

2) 「人間工学」「看護人間工学研究誌」への投稿が少ない。

3) 部会のホームページの英語版を設けることを目標として取り組んできたが、出来ていない。

(5) 展望

1) 看護人間工学部会員の人間工学会への入会促進に向けて引き続き取り組んでいく。

2) 本部会での研究発表と「人間工学」「看護人間工学研究誌」への投稿を促進する。

3) 看護人間工学部会のホームページの英語版を設ける。

4) 看護人間工学研究誌、研究発表会の充実をはかる。

5-8. 情報社会人間工学研究部会

{ 部会長: 平沢 尚毅 }

(1) 平成 23 年度活動テーマ

「社会システムなどの社会基盤の情報通信技術の適用に対する人間工学の可能性と課題」について探求した。これまで、製品や個別システムを対象としてきた人間中心アプローチを、社会システムを対象とした場合の可能性と課題を研究した。

(2) 活動内容(手段・方法)

1) 情報処理学会「情報システムと社会環境研究会」とのシンポジウムの共催

2011 年 9 月 5 日(月) 小樽商科大学にて情報処理学会「情報システムと社会環境研究会」との共催で、『「つながり」を創り出す情報システム』というテーマでシンポジウムを開催した。発表内容は、次の通りである。

- ・農業クラウドによる農業生産者の課題解決への取り組み(山崎富弘(富士通株式会社))
- ・北海道における自治体クラウドの取り組み(白井芳明, 八重樫裕司(株式会社 HARP))
- ・スマーターフィッシュプロジェクト(末次信治(日本アイ・ビー・エム株式会社))
- ・函館観光情報サイト“はこぶら”の構築を通じた実践的 ICT 教育(奥野拓(公立はこだて未来大学))
- ・情報システム研究とヒューマンファクターとの接点(平沢尚毅(小樽商科大学))

2) NPO 法人慢性疾患診療支援システム研究会とのシンポジウムの共催

2012 年 2 月 26 日(日) 甲府市ロイヤルガーデンホテルにて、NPO 法人慢性疾患診療支援システム研究会と『カルテ情報の共有化の必要性と課題解決について考える』というテーマでシンポジウムを共催した。発表内容は以下である。

- ・現在の医療における ICT の活用状況や今後の展望、課題(高坂 定((株)メディック総研))
- ・医療現場における医療情報の共有化の取り組みと課題(刑部 光太郎(トモエ医院))
- ・ネットワークを利用した整形ペインクリニック開業モデル(川端 博志(K&A クリニック))
- ・医療情報システムと人間工学との接点 - 情報社会人間工学部会での話題から(平沢 尚毅(小樽商科大学))
- ・健康情報共有化の診療上の意義と現在慢性疾患診療支援システムが抱える問題点(柏木 賢治(山梨大学))

3) 学会誌での活動紹介

学会誌 47 巻 4 号に情報社会人間工学部会に関する総説「情報社会人間工学研究部会のこれまでの歩み」を掲載した。

4) 役員会

今年度の役員会は、役員全員の日程調整がうまくゆかなかったために、シンポジウム担当役員間での打ち合わせを行った。

(3) 成果

情報システム研究者および実務者、医療関係者および医療情報システム関係者とシンポジウムを開催した結果、様々な活動の接点があることがわかった。結果として、人間工学を様々な ICT システムへと展開してゆく可能性を見いだすことができた。

(4) 問題点

内容の深いシンポジウムを開催することができ、参加者の関心も高かったが、学会関係者への連絡が遅れたため、学会関係者の参加が極端に少ない結果となった。今後、開催の広報を適切に考慮して実施する必要がある。

(5) 展望

医療情報に関わる役員も多いため、次年度は、医療情報システムにおける人間工学の課題を探求してゆく予定である。

5-9. 聴覚コミュニケーション部会

{ 部会長: 江袋 林蔵 }

(1) テーマ 人間工学における聴覚研究のミッション

概要 平成 23 年度は、第 2 会期・第 3 年次に当たった。Ergonomics の分野における聴覚を中心とした独自の研究領域の探索を具体的に考えた第 2 会期・第 2 年度の活動に続き、引き続き既成学会の活動に倣うことは第

3年次の当年度も変わらないが、別の角度から海外との交流を図ることを課題として活動を図ってきた。

(2)聴覚コミュニケーション研究のミッション

Ergonomics 分野における独自の研究領域開拓を図る。

(3)方法

- 1) JES 内他部会との交流・研究会の開催・および他学会との交流。
- 2) 幹事会の開催
- 3) ニュースレターの発行

平成 23 年度展望を踏まえ前年度に準じて活動するが、前年度幹事会議決の Dr. Helmut Strasser (University of Siegen / 前 German Ergonomics Society 会長) を、JES AE 部会として招聘し第 5 回 AEG 研究会を開催する計画になっている。また、日本音響学会聴覚研究会が九州で開催される場合は共催を予定すると共に、JES システム大会部会に参加し JES 内他部会との交流を図りつつ研究領域のあり方を模索する。

(4)成果

概要 平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災は、日本音響学会春期研究発表大会 (2011.Mar. 9-11) における取材も含めて部会に所属する研究機関においても多大の影響を受けたところもあったが、Dr. Strasser を Lecturer としてお招きした第 5 回 AEG 研究会も当初の成果を達成し、12 月には、音響学会聴覚研究会との共催の研究会が横浜国立大学みなとみらいキャンパスに変更して開催され、平成 24 年 3 月には、首都大学東京秋葉原サテライトキャンパスで、3 学会共催大会における聴覚・視覚セッション I および II を開催し Ergonomics の視点からの考究に資するところがあった。

1) 研究会の開催・他学会との交流

a) 第 5 回 AEG 研究会

第 5 回 AEG 研究会は、平成 23 年 9 月に大阪で開催される Internoise に座長として招かれた University of Siegen の Prof. Dr. Helmut Strasser を Lecturer としてお招きして、8 月 31 日に、一橋の学士会館で当学会システム大会部会のご支援をいただき開催された。その演題を以下に示す。

第 I 部 招待講演 (60 分) 10:00 - 11:00

AEG2011-1 Conventional Measurement, Assessment, and Rating of Noise versus Physiological Cost of Sound Exposures-A Critical review from an Ergonomic Point of View.

Univ. Professor Dr.-Ing. habil. Helmut Strasser, Past Pres. of German Ergonomics Society, Ergonomics Division of University of Siegen.

休憩

第 II 部 研究発表 (各 20 分) 10:10 - 12:10

AEG2011-2 Revision of ISO 7029 "Statistical Distribution of Hearing Threshold"

Dr. Kenji KURAKATA, Dr. Tazu MIZUNAMI, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology, AIST, JAPAN.

AEG2011-3 Application Basics of ASR Operation from ergonomic Perspective.

Dr. Rinzou EBUKURO, CPE, Operating SAU Res. Org.

AEG2011-4 The Guitter Body Pickup using Piezoelectric Elements for the acoustic Guitter

Dr. Ichiro TOKUHIRO, Kouichiro KAWATA, Kanagawa Inst. of Tech.

Kiyohiko YAMAYA, Sona research Co. Ltd.

b) 第 7 回音響学会共催研究会 音のデザイン調査研究委員会

第 7 回音響学会共催研究会は、平成 23 年 12 月 16 日、横浜国立大学みなとみらいキャンパス横浜ビジネススクール (YBS) で開催された。今回は、招待講演の演者として AEG 部会員でもある 川上 央 (日大芸術) 先生を推薦し、日本音響学会音のデザイン調査研究委員会 (AEG 幹事会員でもある九州大学の岩宮信一郎先生が委員長) との共催となった。当日の演題を以下に示す。

N-2011-53 (招待講演) なぜ音のデザインなのか 大富浩一、穂坂倫何 (東芝)

N-2011-54 (招待講演) ノイズポリシー構築のための一考察 土田義郎 (金沢工大)

N-2011-55 (招待講演) フランス国立音楽音響研究所 (IRCAM) 音の知覚とデザインチームの活動について

川上央(日大・芸術) Nicolas Misdariis, Patrick Susini (IRCAM-Pds)

N-2011-56 (招待講演) 自動車における音のデザイン 戸井武司(中央大)

N-2011-57 (招待講演) 音のデザインに係る ISO 規格の動向と IT 機器業界の動向 高梨章男(株式会社アイエンジニアリング)

C) 第2回3学会共催大会

日本人間工学会システム大会部会幹事会・21世紀科学とシンポジウム企画運営委員会・日本知能情報ファジィ学会関東支部の共催になる第2回3学会共催大会は、平成24年3月16日～18日にかけて首都大学秋葉原サテライトキャンパスにて開催された。ここでは、神奈川工大の高尾秀伸先生により聴覚・視覚 I・II のセッションが設けられ活潑な討議が展開された。当日の演題を以下に示す。

視覚・聴覚 I

聴覚コミュニケーションの Ergonomics、江袋林蔵 (SAU 研究機機構)

パラコーン社製クラシックギターの計測と性能評価 徳弘一路、佐川有志、渡辺浩嵩 (神奈川工大)、梅田勲 (Paracone Musical Instruments L.L.C.)

F NIRS による音像の方向定位時における脳活動測定 井原充哉、高尾秀伸 (神奈川工大)

視覚・聴覚 II

残響時間の変化が仮装音の距離知覚に及ぼす影響の検討 吉川輝、露崎高広、高尾秀伸 (神奈川工大)

視覚障害者向け商業施設内ナビゲーションシステムの開発 - シナリオに基づく陳列商品情報の提供 - 久保田敦大、高尾秀伸 (神奈川工大)

視覚障害者向け歩行ナビゲーションシステム 間接音の付加による仮装音響空間の現実感向上の検討 露崎高広、吉川輝、高尾秀伸 (神奈川工大)

2) 幹事会の開催

幹事会は、平成22年度初頭に部会内広報(ニュースレターNo.63)を通じて既存の組織で引き続き運営され、Dr.Strasser の AEG 研究会への招請を含め、部会運営に関する審議等を行っている。構成委員と分担事項は以下の通りである。

部会長 江袋林蔵 (庶事/渉外)

幹事会 岩宮真一郎 (九州大学/渉外) 徳弘一路 (神奈川工大/資料編纂) 水浪田鶴 (産総研/広報)

3) 広報活動

a) ニュースレターを No.74 迄発行した。

b) 第5回 AEG 研究会と第7回日本音響学会共催研究会の概要を Ergonomics の視点から概観し、人間工学編集委員会に執筆投稿した。

c) 他学会との交流は、Auditory Ergonomics の社会的意義とその有用性に関する相互の理解と認識に貢献していると考えられる。

(5) 課題

上記 b) 人間工学編集委員会への活動報告を通じて、Ergonomics の視点からの研究成果に対するいささかの吟味がなされたが、Auditory Ergonomics の分野での研究は昨年度で8年を経過し、平成24年は9年目になるものの、これまでの活動を通じて我々の考える十分条件側からの研究方法に対する理解を一般に得るのが至難であることは、一昨年 HFES から AETC が見られなくなったことから理解できると考えられ、Ergonomics に軸足を置く研究方法の確立が今後の課題となるのがこれまでの活動を通じて改めて認識された。他学会との交流維持・研究会の継続と部会活動の広報に一層の力を入れるなど、更なる今後の活動が必要と考える。

(6) 展望

第2会期後半初年度は、上記課題を踏まえた活動を展開することになるが、成果を急ぐより、課題とされている事柄について活動を通じて理解することが先になる。幸い、既存学会との交流も順調であり、平成23年度は EU から Dr.Helmut Strasser をお迎えでき、先に向けての展望がなにかしかも開けたように思える。

5-10.安全人間工学研究部会

{ 部会長:芳賀 繁 }

- (1)ホームページに研究会の案内，報告，安全人間工学委員会による福島第一原子力発電所事故に関する声明文等を掲載した。URLはhttp://www2.rikkyo.ac.jp/web/jes_anzen/。
 - (2)研究部会の会員（日本人間工学会会員資格を有する者＝H23年3月末現在30名）と，研究会の参加者を結ぶメンバーリングリスト（H23年3月末現在122名登録）を用いた情報発信を行っている。
 - (3)平成23年度は6回の研究会を開催（主催・共催を含む）した。その日時，場所，内容は下記のとおりである。
なお，平成23年12月より，研究会幹事を安全人間工学委員会委員から，鳥居塚（日大）・中西（慶應義塾大）・吉村（海技研）の3氏に引き継いだ。
- 1)安全人間工学研究部会第5回研究会(認知心理学会安全心理学部会と共催)
日時：平成23年5月21日（土）14時00分～16時00分
場所：立教大学池袋キャンパス4号館4341教室
時間：14:00-16:00
話題提供：申紅仙准教授（常磐大学）
演題：「自然災害：防災の取り組みと今後」
 - 2)安全人間工学研究部会第6回研究会(日本人間工学会東北支部，日本認知心理学会安全心理学研究部会と共催)
日時：平成23年7月24日（土）13時30分～17時00分
場所：東北大学工学研究科総合研究棟110号室
「ヒューマンファクターの視点から見た東日本大震災」
話題提供者1：海上保安学校宮城分校 小林和広氏
話題提供者2：航空保安大学校 管制科長 稲村直人氏
話題提供者3：石巻赤十字病院副院長 朝倉徹氏
参加人数：59名（話題提供者3名を含む）
 - 3)安全人間工学研究部会第7回研究会(日本認知心理学会安全心理学研究部会と共催)
日時：平成23年10月29日（土）14時00分～16時00分
場所：立教大学池袋キャンパス7号館7301教室
「後知恵バイアスに関する社会心理学からのアプローチ」
話題提供者：桑山恵真氏（一橋大学）
 - 4)安全人間工学研究部会第8回研究会(日本人間工学会関東支部会，日本認知心理学会安全心理学研究部会と共催)
日時：平成23年12月10日（土）16時20分～17時50分
場所：芝浦工業大学豊洲キャンパス教室棟
話題提供者1：小松原 明哲 先生（早稲田大学）
「人が守る安全：ヒューマンファクターに起因する事故防止のための3管理とレジリエンスマネジメント」
話題提供者2：北村 正晴 先生（東北大学）
「東日本大震災における「想定外」と組織のレジリエンス」
話題提供者3：芳賀 繁 先生（立教大学）
「想定外への対応は裁けるか - 「公正な文化」が「柔軟な文化」と「学習する文化」を支える - 」
 - 5)安全人間工学研究部会第9回研究会（日本認知心理学会安全心理学研究部会と共催）
日時：平成24年1月20日（金）18時30分～20時00分
場所：早稲田大学西早稲田キャンパス55号館2階第3会議室
話題提供者：石橋 基範氏（マツダ株式会社・技術研究所）
「自動車運転におけるヒューマンファクター研究の一事例」
 - 6)安全人間工学研究部会第10回研究会（日本認知心理学会安全心理学研究部会と共催）
日時：平成24年2月25日（土）14時00分～16時00分
場所：立教大学池袋キャンパス7号館3階 7302教室

話題提供者：大橋 智樹 教授（宮城学院女子大学）

「原子力災害とは何か？ - 福島第一原子力発電所事故から真に学ぶために - 」

5-11.3D 人間工学研究部会

{ 部会長:河合 隆史 }

(1)活動目的

平成 23 年度の活動では、立体映像（3D）の急速な普及に伴う人間工学的課題について、研究者や技術者との最新の情報共有を目的として、セミナーやシンポジウムを企画した。

(2)手段・方法・成果

2011 年 6 月 6～7 日に、早稲田大学国際会議場にて開催された「日本人間工学会 第 52 回大会」において、企画シンポジウム「立体映像の人間工学 安全性と快適性」を主催した。

2011 年 10 月 20～22 日に、日本科学未来館で開催された「Digital Content Expo 2011」において、セミナー「立体映像の快適視聴に関する新たなパラダイム」を主催した。本セミナーでは、3D が、映画やテレビ、ゲームなど、さまざまな形で、日常生活に浸透しつつある現在、これまでの「3D は目に悪い」といった漠然としたイメージから一歩進めて、快適に視聴するための諸条件をはじめ、ネガティブ要因の切り分けと対応、ポジティブ利用へのエビデンス等の知見を共有するための、2 件の講演を行った。

さらに、2011 年 12 月 10 日～11 日に芝浦工業大学豊洲キャンパスで開催された「日本人間工学会 関東支部第 40 回大会」において、「ソーシャルメディアと立体視」と題したシンポジウムを企画した。

(3)展望

平成 23 年度に開催したセミナー、シンポジウムとも、多くの方々に参加いただき、3D に対する関心の深さを確認することができた。今後は、最新の研究成果を共有する場を継続していくことに加えて、より多くの切り口、視点からの議論を盛り込んでいきたい。

5-12. システム大会部会

{ 部会長：富田 豊 }

(1)活動テーマ：

感性情報処理・官能評価部会、看護人間工学部会、聴覚コミュニケーション部会、旧ヒトをはかる部会、旧座研究部会、旧視覚エルゴノミクス研究部会が中心となり、人間工学システム大会と称して 18 年前に発足した。

2011 年度は衛藤憲人（東海大学）が世話人となり、首都大学東京秋葉原キャンパス（千代田区）で 3 月 16 日，17 日，18 日に開催され、100 名を超える参加者があった。大会および大会開催に向けて数回の幹事会を開いたので報告する。

(2)部会運営と主な活動内容

システム大会幹事会

・第 1 回システム大会幹事会

日時：7 月 15 日(金)18：00～20：00

場所：文化大学(新宿)

議題：本大会の今後の事業形態について、次回開催地、開催形態 等

・第 2 回システム大会幹事会

日時：11 月 26 日(土)15:00～17:00

場所：首都大学東京秋葉原キャンパス(千代田区)

議題：参加費、夜話、セッション、広報、その他部会運営について

・第 3 回システム大会幹事会

日時：1月21日(土)16:30～18:30

場所：首都大学東京秋葉原キャンパス(千代田区)

議題：HPの作成などについて、HPの作成資料、JES誌告知文検討、プログラム枠作成、企業展示検討、他

(3)展望：部会活動の中心的課題である「人間工学のシステム関連の分野を包括した研究」を続け、電子媒体を駆使しながら、活動する。

平成24年度事業計画(案)

1. 事業計画

{総務担当:堀江 良典、大内 啓子}

- (1)一般社団法人日本人間工学会は、安寧な社会システムを構築するために、人間工学を実践する学術団体として寄与することを目指す。
- (2)第53回大会を栃原 裕大会長のもと平成24年6月9日(土)～10日(日)に九州大学で開催する。
- (3)平成24年定時社員総会を平成24年6月9日(土)に九州大学において開催し、平成23年度事業報告・収支決算、平成24年度事業計画・収支予算の審議等を行う。
- (4)第54回大会を堀江良典大会長のもと平成25年6月1日(土)～2日(日)に日本大学生産工学部で開催することとし、準備を進める。
- (5)理事会を年4回以上開催する。
- (6)ホームページのコンテンツの充実、機能の追加をはかり、ホームページを中心に広報活動を推進することで人間工学の普及に努める。
- (7)機関誌「人間工学」の第48巻2～6号および第49巻1号の計6冊を発行する。
- (8)認定人間工学専門家資格認定試験(A方式試験)を年1回、筆記試験免除条項の適用(B方式試験)を年1回実施、また人間工学準専門家および人間工学アシスタント各試験を年4回程度実施する。その他、再認定制度(生涯研修制度)推進等の活動を行うとともにシンポジウム、講演会、セミナーを開催し、資格制度の対外アピールを積極的に行う。
- (9)長期的に事業を行う常設委員会・担当と、特定の目標を定め次年度総会までに得られた成果を学会として組織的に活用する臨時委員会・担当を置く。常設委員会・担当としては、広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、ISO/TC159国内対策委員会、表彰委員会、安全人間工学委員会、学術担当、企画担当、人間工学専門家認定機構を設ける。また臨時委員会・担当として、IEA担当、学会組織検討委員会、ウェブアクセシビリティ支援委員会、企業の間人間工学教育のあり方検討委員会、第53回大会担当および第54回大会担当を設置し、各事業を積極的に進める。
- (10)支部活動および研究部会活動を推進し、その成果を学会員ならびに社会に広める。研究部会は航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、感性情報処理・官能評価部会、看護人間工学部会、情報社会人間工学研究部会、聴覚コミュニケーション部会、安全人間工学研究部会、3D人間工学研究部会、医療安全研究部会、衣服人間工学部会、触覚インタラクション研究部会、システム大会部会の計12部会で活動を行う。
- (11)IEA(国際人間工学連合)と連携して様々な国際協力活動を推進する。IEAウェブサイトのリニューアル支援、次年度IEA理事会への出席準備、IEAアワード申請への協力、IEA内の各委員会、特に藤田副会長への協力を進める。平成24年5月25日～26日に韓国済州島で開催されるESK(大韓人間工学会)/JES合同シンポジウム2012への協力。
- (12)ISO/TC159(人間工学)分野の規格の作成・審議および人間工学JIS規格の作成、普及・啓蒙のための活動を行う。
- (13)平成24年度グッドプラクティス賞の受賞案件、研究奨励賞の受賞論文、優秀研究発表奨励賞の受賞者を決定し、表彰を行う。平成25年度各賞の選考を行うとともに、日韓シンポジウムのESK側功労者への表彰を含めた表彰準備を進める。また既存の表彰制度及び国際表彰への対応の仕組みの整備を行う。
- (14)安全問題にかかわる人間工学会の様々な活動に関する提言、助言、実務を行う。
- (15)従来の日本学術会議担当、横断型基幹科学技術研究団体連合担当および文科省科研費担当を再編成し、継続的に実施する事業として学術担当を設置し、人間工学を社会へ普及させるために学術面から貢献する具体的方策の確立を目指す。
- (16)学会主催の公開講座、シンポジウム等の行事に関する企画と調整を行う。
- (17)学会事務局は、学会内外の情報伝達の要としての役割を果たすとともに、迅速で正確な業務の執行に努め、学会運営の基盤を支える。また、適宜業務内容を見直し、その効率化と経費節減をはかる。

2. 委員会・担当活動

[常設委員会・担当]

2-1. 広報委員会

{委員長：榎原 毅、副委員長：松田 文子}

- (1) 理事会、支部、委員会、研究部会などと連携・協力のもと、ホームページを中心に広報活動を推進することによって人間工学の普及に努める。コンテンツの充実、機能の追加、そしてホームページの運用プロセスの整備を行う。
- (2) グッドプラクティスデータベース (GPDB) の取り組みを継続し、さらなる人間工学の実践事例公開を通して認知度向上へ努める。表彰委員会・人間工学専門家認定機構と連携し、「専門家 100 名が選んだ人間工学 GP 賞」を活用した情報発信を行う。
- (3) 編集委員会と連携を図り、査読の質を高めつつ、投稿者への利便性向上、迅速な審査体制の整備および編集委員会業務の効率化を図る「電子投稿・査読システム」の構築を、技術面から支援する。
- (4) ニーズ対応委員会にて検討・実施してきた事業を引き継ぎ、人間工学の社会発信を積極的に行う。
- (5) 人間工学関連リーフレットの更新・配布、学生・企業の架け橋プロジェクトなど推進中の広報活動をさらに発展、推進する。
- (6) Facebook、Ustream 等、新メディアによるインフラ基盤を活用した広報戦略の検討を行う。

2-2. 編集委員会

{委員長：大須賀 美恵子、副委員長：榎原 毅}

- (1) 学会誌「人間工学」の年 6 号分の通常の編集・発行業務を行う。
- (2) 人間工学領域発展のための場としての学会誌のあり方について検討し、順次実現する。研究上の倫理的配慮の啓蒙方法について検討する。
- (3) 編集委員会のホームページを充実させ、学会員へのサービスを充実させる。
- (4) 査読の質を高めつつ、投稿者への利便性向上、迅速な審査体制の整備および編集委員会業務の効率化を図るため、広報委員会と協力・連携し、電子投稿・査読システムの構築について検討を行う。
- (5) その他、編集委員会所掌業務への迅速な対応をはかる。
- (6) 平成 24 年度の編集委員会は、これまで通り隔月開催を予定し、開催のない月には電子編集委員会を開催する。開催日はホームページで周知する。

2-3. 国際協力委員会

{委員長：小谷 賢太郎、副委員長：鳥居塚 崇}

- (1) ESK/JES Joint Symposium 2012, が濟州島で開かれる(5/26-5/27) . この JES 窓口として会員参加への協力
- (2) 次年度 IEA 理事会(2013 年 8 月 26-27 日, パリ)にむけて国際協力活動
 - ・ IEA 内の各委員会(特に藤田 IEA 副会長)への協力
- (3) 国際協力活動およびその他
 - ・ IEA アワード申請への協力
 - ・ IEA 内の各委員会(特に藤田 IEA 副会長)への協力
 - ・ 学会内各委員会などへ国際協力委員としての参加

2-4 . ISO/TC159国内対策委員会

{委員長:横井 孝志、副委員長:吉武 良治}

ISO/TC159 (人間工学)分野の規格の提案、作成、審議、ならびに人間工学JIS規格の作成、普及・啓蒙のための活動を行う。

(1)会議:全体会議4回、分科会延べ30回前後開催予定

(2)予定されている主な審議項目

- ・ SC1 (人間工学の一般原則)
 - ・ 人間工学設計に関するプロセス規格の CD 検討
- ・ SC3 (人体寸法と生体力学)
 - ・ ISO/NP TR 12295 Ergonomics -- Application document for ISO standards on manual handling (ISO 11228-1, ISO 11228-2 and ISO 11228-3) and working postures (ISO 11226)
 - ・ ISO/DTR 12296 Ergonomics -- Manual handling by people in the healthcare sector
 - ・ ISO/FDIS 15535 General requirements for establishing anthropometric databases
- ・ SC4 (人間とシステムのインタラクション)
 - ・ ISO/CD 9241-391 Ergonomics of Human System Interaction -- Part 391: Requirements, analysis and compliance test methods for the reduction of photosensitive seizures
 - ・ ISO/NP 9241-392 Ergonomics of human-system interaction -- Part 392: Ergonomic requirements for the reduction of visual fatigue from stereoscopic images
 - ・ ISO/DIS 11064-4 Ergonomic design of control centres -- Part 4: Layout and dimensions of workstations
 - ・ ISO/NP TS 20282-3 Ease of operation of everyday products -- Part 3: Test method for consumer products
- ・ SC5 (物理的環境の人間工学、特別な配慮を必要とする人々のための物理環境)
 - ・ ISO/AWI 7726 Ergonomics of the thermal environment -- Instruments for measuring physical quantities
 - ・ ISO/NP 16418 Ergonomics of the thermal environment -- Mathematical model for predicting and evaluating the dynamic human physiological responses to the thermal environments
 - ・ ISO/AWI TR 16594 Guide for working practices for moderate thermal environments
 - ・ ISO/NP 17630 Ergonomics -- Accessible design -- Colour combination for younger and older people
 - ・ ISO/CD 24504 Ergonomics -- Accessible design -- Sound pressure levels of spoken announcements for products and public address systems

(3)国際会議予定

- ・ TC159 総会(2012年4月:ウイーン)他各 SC、WG の国際会議複数予定

2-5.表彰委員会

{委員長:阿久津 正大、副委員長:矢口 博之}

(1)委員会開催

委員会を5回開催する。そのほかに随時電子メールで討議を行い、下記の活動を進める。

(2)活動内容

- 1)表彰制度の新設、整備等に資するために、他学会等の表彰制度に関わる情報を収集する。
- 2)既存の表彰制度の見直し・整備を継続して行い、標準化・充実化をはかる。
- 3)平成24年度(第1回)人間工学グッドプラクティス賞の受賞候補案件を選考するとともに、表彰の準備を進める。
第53回大会・定時社員総会時に平成24年度「人間工学グッドプラクティス賞」の受賞者に対する授与式を行う。
また同賞の平成25年度(第2回)受賞候補案件を選考するとともに、表彰の準備を進める。
- 4)平成25年度「日本人間工学会論文賞」の受賞候補論文を選考するとともに、表彰の準備を進める。
- 5)第53回大会・定時社員総会時に平成24年度「研究奨励賞」の受賞者に対する授与式を行う。また平成25年度「研

究奨励賞」の受賞候補論文を選考するとともに、表彰の準備を進める。

- 6) 第 53 回大会における「日本人間工学会優秀研究発表奨励賞」の受賞者を選考し、表彰を行う。また第 54 回大会における同賞受賞者の選考に向けて準備を進める。
- 7) 第 54 回大会における日韓シンポジウムの ESK 側功労者に対する表彰の準備を進める。
- 8) 国際表彰に関して、国際協力委員会と連絡を密にして IEA からの推薦依頼等について対応する。また国際協力委員会と連携し、本学会 HP で各種アワードの紹介・推薦募集等の広報活動及び本学会が候補者を積極的に推薦できる仕組みを整備し、運用を進める。
- 9) 表彰委員会 HP を開設し、これまで不十分であった表彰に関する広報活動を積極的に進める。

2-6. 安全人間工学委員会

{ 委員長：芳賀 繁、副委員長：首藤 由紀 }

- (1) 四半期ごとに委員会を開催し、安全問題にかかわる人間工学会の様々な活動に関する提言、助言、実務を行う。
- (2) 日本学術会議安全工学シンポジウムの運営委員を選出するとともに、オーガナイズド・セッションを企画する。
- (3) 安全人間工学研究部会の運営をサポートする。

2-7. 学術担当

{ 担当：斉藤 進、青木 和夫 }

これまで学会内に設置されていた日本学術会議担当、横断型基幹科学技術研究団体連合担当及び文科省科研費担当を再編成し、継続的に実施する事業として新たに学術担当を設置し、これらの役割を統合することにより互いの連携を図ることとした。また、学会内に設置されている他の常設及び臨時委員会・担当等と協同することにより、人間工学を社会へ普及するために学術面から貢献する具体的方策の確立を目指す。

日本学術会議との連携拡充を図るとともに、横断型基幹科学技術研究団体連合へ役員を派遣し編集委員会や横幹コンファレンスの運営などに積極的に参加する。また、科研費補助金の分科細目表に「人間工学」を採択するよう文部科学省等へ要望を続けているところであり、平成 25 年度の科研費補助金公募から適用する「系・分野・分科・細目表」改正へ向けた提案書のフォローアップを行う計画である。

2-8. 企画担当

{ 担当：河合 隆史、青木 和夫 }

- (1) 学会の公開講座等の企画を行う。
- (2) 大会における学会企画シンポジウムの企画を行う。
- (3) その他、学会主催の行事に関する企画と調整を行う。

2-9. 人間工学専門家認定機構

{ 機構長：吉武 良治、副機構長：福住 伸一 }

- (1) 資格認定試験を実施する

資格認定試験（A 方式試験）を年 1 回、筆記試験免除条項の適用（B 方式試験）を年 1 回実施する。準専門家・人間工学アシスタント試験を年 4 回程度実施する。

A 方式試験：2012 年 9 月 14 日(金) 東京

- (2) 定期総会、講演会、幹事会を開催する

総会 日時：2012 年 4 月 19 日(木) 16:00~17:00

会場：中央大学駿河台記念館 510 号室

講演会 日時：2012年4月19日(木) 14:00～15:50

会場：中央大学駿河台記念館 510号室

講演：伊藤一也（日産自動車株式会社）演題：「生涯現役な専門家を目指して」

講演：倉持淳子（シャープ株式会社）演題：「使ってみたいモノづくり」

幹事会（2回開催予定）

(3)機構長の改選を行う

(4)再認定を促進する

(5)シンポジウムを開催する。

日本人間工学会第53回大会（福岡）においてシンポジウム「人間工学専門家の魅力と実力」を行う。

(6)機構ホームページのリニューアル、会報、学会大会、広告等を活用して会員の交流と本制度の対外アピールに努める。

(7)人間工学グッドプラクティスデータベース作成に積極的に協力する。

(8)IEA 専門家教育委員会の活動に協力する。

(9)学会内組織、他学会、他の資格認定組織との連携を行う。

(10)CPE セミナーを開催する。

【臨時委員会 担当】

2-10. IEA 担当

{ 担当: 藤田 祐志、河合 隆史 }

IEA の活動を直接あるいは間接に支援することを目的とし、具体的には以下を実施する。

(1)財務担当副会長職の遂行

(2)IEA ウェブサイトのリニューアルおよび運用にかかわる支援

(3)その他必要なこと

2-11. 学会組織検討委員会

{ 委員長: 酒井 一博 }

1964年の学会創立以来、まもなく50周年を迎えようとしている現在、一般社団法人に相応しい学会活動と人材育成のあり方について、短期間で意見をとりまとめ、理事会に提案する。検討にあたっては、「社団法人日本人間工学会の在り方に関するアンケート調査の集計結果」（2005年5月）ならびに「日本人間工学会将来計画委員会報告書」（2008年6月）、理事任期制についての答申（2012年3月）をはじめ、これまでの有効な報告や情報等を参考に、以下の事項について検討をすすめる。

(1)学会の組織の望ましいありかたについて（定款の内容の検討を含む）

(2)理事・監事の再任の制限を行う利点と欠点、及び実施する場合の方法について

(3)代議員及び役員（理事、監事、理事長、副理事長）の任期と選出方法について

(4)その他、委員会が必要とする事項

なお、本委員会は2012年度中に意見の集約を図る。

また、委員の構成に当たっては、支部の意見を反映するために、各支部から支部長の推薦するものを加えることとする。

2-12. ウェブアクセシビリティ支援委員会

{委員長:青木 和夫}

IEA のウェブサイトのリニューアルを行うために以下の活動を行う。

- (1)新しいウェブサイトのデザインとコンテンツを検討して決定する。
- (2)ウェブサイトの構築を行う発注先を検討して決定する。
- (3)リニューアルしたウェブサイトのアクセシビリティの評価を行う。

2-13. 企業の人間工学教育のあり方検討委員会

{委員長:酒井 一博、副委員長:易 強}

- (1)昨年度に引き続き、静岡県工業技術研究所と協力し、遠隔支援の Web サイトを改良しながら、中小企業における製品やサービスの設計開発を支援する仕組みを継続的に運用し、今後の課題を検討する。
- (2)よい成果については、本学会のグッドプラクティスデータベースの推薦を行い、掲載につなげる。
- (3)これまでの活動を総括し、今後の活動方針について多様な意見を得るため、第 53 回大会において、委員会主催のシンポジウム「設計・改善活動など人間工学の実践とビジネスへの貢献」を開催する。
- (4)20 年度の「企業の人材育成プログラム開発委員会」にて実施したヒアリング結果および、本委員会で実施した成果を踏まえ、企業を対象としたアンケートを実施し、人間工学分野における人材育成の課題や需要等を調査する。
- (5)本年度を最終年度と位置づけ、これまでの活動を総括し報告の場を作る。

2-14. 第 53 回大会担当

{担当: 栃原 裕}

【開催日】2012 年 6 月 9 日（土）10 日（日）

【大会会場】九州大学大橋キャンパス（福岡市南区塩原 4-9-1）

【懇親会場】タカクラホテル福岡（福岡市中央区渡辺通 2 丁目 7-21）

- (1) 9 件のシンポジウム（内 1 件は学会企画）、1 件のオーガナイズドセッションを行う。
- (2) 2 件の特別講演、1 件の海外招待講演、1 件のキーノートレクチャーを行う。
- (3) 1 件の公開講座（高校生向け）を行う。
- (4) 口頭発表 147 題、ポスター発表 35 題の演題を採択した。
- (5) 45 の学・協会等から協賛の許諾を得た。
- (6) 16 件の企業展示の申し込みがあった。
- (7) 大会案内はホームページ（<http://jes2012.jp>）を活用して行う。

3. 支部活動

3-1. 北海道支部

{支部長:横山 真太郎}

(1)会議

1)支部役員会 平成24年7月中旬 北翔大学（予定）

- ・平成23年度 支部事業報告
- ・平成23年度 決算報告並びに監査報告
- ・平成24年度 予算案
- ・平成24年度 支部事業計画案

(2)平成24年度支部総会並びに大会

大会長：三上行生先生（北海道工業大学）

日時：平成24年11月（予定）

場所：北海道工業大学（予定）

1) 支部総会議題

- ・平成23年度支部事業報告
- ・平成23年度決算報告並びに監査報告
- ・平成24年度予算案
- ・平成24年度支部事業計画案
- ・平成25年度北海道支部大会開催について

3-2. 東北支部

{ 支部長：北村 正晴 }

(1) 支部役員会

平成24年4月下旬開催（予定）

議事：平成24年度支部活動方針の策定
支部総会議案および資料作成

(2) 支部総会

1) 日時：平成24年5月下旬開催（予定）

2) 場所：未定

3) 議事：平成24年度役員選出

平成23年度事業報告および決算報告

平成24年度事業計画案および事業予算案

その他

(3) 支部講演会

年1～2回の開催を予定

(4) 支部研究会

年3回程度の開催を予定

(5) その他

本年度も、地震・津波被災地域の復興状況を勘案しつつ弾力的に活動を進める計画とする。

3-3. 関東支部

{ 支部長：阿久津 正大 }

(1) 第42回関東支部大会

・開催日：平成24年12月1日(土)～2日(日)

・会場：埼玉県立大学

・大会長：徳田哲男先生

・特別講演、一般講演など

(2) 支部委員会 年2回開催予定

開催日：平成24年12月1日(土) 会場：埼玉県立大学

上記のほかに通信による支部委員会を予定

(3) 支部総会

開催日：平成24年12月1日(土) 会場：埼玉県立大学

(4) 卒業研究発表会

開催日:平成24年12月1日(土)もしくは2日に実施予定 会場:埼玉県立大学

(5)見学会

開催日:平成25年3月に実施予定

(6)その他

- ・基礎技法講習会、企業・研究機関交流などを開催予定
- ・ニュースレターの発行
- ・支部大会講演集 Web 化の推進 など

3-4.東海支部

{支部長: 齋藤 真}

(1)平成24年度一般社団法人日本人間工学会東海支部総会開催

- ・開催日時:平成24年5月12日(土) 15:00-16:30
- ・場所:名城大学名駅サテライト多目的室
- ・懇親会:17:45 - 19:45 旗籠家

(2)講演会の開催

- ・開催日時:平成24年5月12日(土) 16:30-17:30
- ・場所:名城大学名駅サテライト多目的室
- ・演題:「能率心理学から KAIZEN-人間工学の視点から-」
- ・演者:前中京大学教授、高崎経済大学名誉教授 岸田孝弥氏

(3)支部役員、支部長改選

- ・支部会員による支部理事選出、改選支部理事互選による支部長選出

(4)平成24年度日本人間工学会東海支部研究大会の開催

- ・開催日:2012年10月27日(土)
- ・開催場所:名城大学
- ・大会長:横森 求 名城大学、 実行委員長:福田康明 名城大学、 論文集担当:齋藤 真
- ・学生支援特別企画「企業との架け橋 - 東海支部プログラム」
- ・一般講演

(5)講演会の開催

(6)その他

- 1)見学会等の開催
- 2)他学会との協賛
- 3)役員会の開催(2カ月に1回程度/メール審議を含む)

3-5.関西支部

{支部長:森本 一成}

(1)企画・行事等

- 1)見学会 平成24年10月頃
- 2)支部大会
開催日:平成24年12月8日(土)~9日(日)
会場:関西大学
大会長:小谷賢太郎先生
- 3)講演会等 平成25年3月頃(支部総会と併催)

(2)会議・総会等

- 1)第1回企画幹事会 平成24年6月頃
- 2)第1回評議員会役員会合同会議 平成24年12月8日(土)(支部大会と併催)
- 3)評議員選挙 平成24年12月~平成25年1月
- 4)第2回企画幹事会 平成25年1月頃
- 5)選挙管理委員会 平成25年2月頃
- 6)第2回評議員会役員会合同会議 平成25年3月頃(総会と併催)
- 7)支部総会 平成25年3月頃
- 8)優秀発表賞授賞式(支部総会時)

3-6.中国・四国支部

{支部長:村田 厚生}

- (1)支部理事会開催
 - 第1回:平成24年12月15日,場所:川崎福祉医療大学
 - 第2回:平成25年3月中旬-下旬,場所:未定
- (2)支部総会開催
 - 平成24年12月15日,場所:川崎福祉医療大学
- (3)支部大会開催
 - 第45回日本人間工学会中国・四国支部大会
 - 開催日:平成24年12月15日(土),場所:川崎福祉医療大学
 - 大会長:田口 豊郁 先生(川崎福祉医療大学)
 - 特別講演:酒井一博先生(労働科学研究所)
- (4)支部講演会開催 平成24年12月
- (5)支部表彰の実施 平成25年3月
- (6)その他

3-7.九州・沖縄支部

{支部長:和田 親宗}

- (1)活動計画
 - 1)第33回支部評議員会
 - ・開催日:平成24年秋期開催予定
 - ・会場:西工大キャンパス(北九州)
 - 2)第33回支部大会および会員総会
 - ・会場:西工大キャンパス(北九州)
 - ・大会長:中島浩二(西日本工業大学)
- (2)その他

4. 研究部会活動

4-1. 航空人間工学部会

{ 部会長: 田中 敬司 }

<H20.4.1~5年以内>

(1) 研究目的

航空人間工学に関する知識の普及、情報の共有化を目的として、本年度は「事故を未然に防止するために（その2）」をテーマとし、航空事故事例から得た人間特性及びマンマシンインタフェースに関わる問題、次世代の航空機等における事故防止技術の動向を分析検討する。

(2) 方法・手段

1) 研究例会の開催

日時：平成24年6月29日(金) 10:00-17:00

場所：国立オリンピック青少年記念センター、センター棟 101号室

【予定講演】として

- ・事故事例分析：トルコ航空1951便墜落事故
- ・PBN時代における安全性と飛行方式
- ・ランウェイインカージョンの防止技術
- ・次世代の航空機：ボーイング787

2) 施設見学会の実施

下期に施設見学会を計画・実施する。

3) 部会ホームページの運営

インターネットを使った部会ホームページを活用して当研究部会の活動内容を広く周知するとともに、活動案内の掲示や会員からの参加申し込みに活用する。本年度は、より質の高い内容を掲載し充実を図る。

4) 委員会・幹事会の開催

適宜委員会及び幹事会を開催し、部会活動を円滑に行うとともに、会員の意見を部会活動に反映させるよう努める。

5) 例会資料の電子ファイル化の継続

昨年同様、本年度開催される例会資料をCD-ROM化し、社団法人日本航空協会が運営する航空図書館に寄贈し、一般の供覧に提供する。なお、講演者の承諾を得られたものについてのみ実施する。

(3) 期待される成果

航空安全の推進に関わる官・民・学および諸外国をも含めた多くの組織が関わっているため、これらの関係者が交流し討議を重ね、情報を共有する場を当研究部会が提供することにより、航空人間工学の知見獲得が可能となる。また、航空の安全の推進へ大きく貢献できるものとする。

4-2. アーゴデザイン部会

{ 部会長：上田 義弘 }

<H20.4.1~5年以内>

(1) 活動テーマ

「HCD + SCD を考える」

- 人間中心と社会環境中心の双方からアーゴデザインを考える -

今年度はこれまでの検討結果を踏まえ、HCDに加え、SCDの定義や内容について議論を深めていく。震災後に新たに発生している社会の動きや倫理観の変化、多様化する人々の価値観を広く総合的に捉え、これからのSCDのあり方を深く探求していく。具体的には、産業界からの参加が多い部会特性を生かして研究会やWG活動を強化し、これまで以上に様々な見識の人々に広く参加を求め、HCD + SCDを考える議論を深めていく。

(2) 手段・方法

1)ワーキンググループ(WG)活動の強化

ビジョン提案型デザイン手法 WG は、今年度の出版を以て一端の区切りとする。今後は講習会や SIG ミーティングを通じて手法の普及、広報活動を推進する。また、テーマ検討 WG を発展的に解消し、SCD 検討 WG を発足させ、本年度の部会活動のテーマである「HCD + SCD」の検討を本格化させる。マザーロードマップ WG は、昨年の活動成果を踏まえ、まとめを実施する。加えて、サイト改善 WG の活動を充実させ、当部会 Web サイトの改善を進め、会員相互の情報交換と部会活動の広報を強化したい。

2)当部会における学生会員制度の設置

昨年度の会則改定を受け、学生会員制度の運用を開始する。これにより学生の参加を促し、学生時代からアーゴデザイン研究に加わることにより、部会員の層を厚くすると共に、次世代のアーゴデザインを担う研究者や実務者の育成を強化する。

3)独自ドメイン[ergo-design.org]による広報活動の充実

上記の通り、Web サイトの改善、充実化を進め、広報活動の強化を図る予定である。また、部会員との連絡手段としメーリングネットワークの活用と SIG 等の運用も一層強化したい。

(3) 期待される効果

「ビジョン提案型デザイン手法」の出版により、新しい人間工学方法論の試みを広めることができる。さらに、アーゴデザイン研究の向かうべき方向性として SCD の考え方を提案することで、社会環境のあり方を踏まえた将来の人間生活を考えるための基盤を提供することができる。

(4)活動予定

- 4月 幹事会、サイト改善 WG セッション
- 6月 ビジョン提案型デザイン手法出版記念シンポジウム準備、幹事会
- 7月 ビジョン提案型デザイン手法出版記念シンポジウム開催
幹事会、サイト改善 WG セッション、ロードマップ WG セッション
- 8月 コンセプト事例発表会、SCD 検討 WG セッション
- 9月 幹事会、サイト改善 WG セッション
- 10月 見学会、SCD 検討 WG セッション、ロードマップ WG セッション
- 11月 幹事会、サイト改善 WG セッション
- 12月 関東支部大会シンポジウム開催
関西支部大会シンポジウム開催
幹事会、SCD 検討 WG セッション
- 1月 幹事会、サイト改善 WG セッション、ロードマップ WG セッション
- 2月 幹事会、SCD 検討 WG セッション検討
- 3月 合宿研究会、総会、幹事会

4-3. 感性情報処理・官能評価部会

{ 部会長: 山下 利之 }

<H20.4.1~5年以内>

(1)目的

当部会は、感性情報処理と官能評価に関わる諸問題を基礎から応用まで幅広く、様々な角度から議論し、研究者同士が互いに刺激し合って、優れた感性情報処理、官能評価研究が輩出されるような場を提供することを目的とする。さらに、この領域の優秀な若手研究者を育成することを目指している。

(2)手段・方法

感性の主体である人間の感覚、知覚、感情、認知のメカニズム、測定・評価方法、数理モデルに関する先端的な研究を行っている研究者を招いて講演会を年3回、さらに活発な活動を行っている研究機関への見学会を年数回企画している。それらを通して、部会員の知識の幅を広げるとともに、研究者間の交流も盛んにしていく。今

年度は、日本知能情報ファジィ学会関東支部や感性工学会感性商品研究部会とのジョイントによる講演会開催を予定している。また、若手研究者の研究意欲を喚起し、具体的なアウトプットを生み出してゆく支援となる場としての機能を充実させるため、システム大会や人間工学会関東支部大会などで、大学院生や卒業論文を執筆した学部生などが発表する機会を積極的に作り出していきたい。

(3)期待される効果

講演会や各種見学会を通じて新しい知識や手法を知るとともに、手法の会得やその応用を目的とした各種研究会の実施により、若手研究者への啓発や本領域の研究者の裾野を増やすことが期待される。さらに、感性情報処理と官能評価手法についての理解が広まることにより、工学の様々な分野で人間理解が進み、学会における研究活動も盛んになることが期待できる。

4-4. 看護人間工学部会

{ 部会長：樋之津 淳子 }

<H20.4.1～5年以内>

(1)テーマ

より安全で安楽な根拠ある看護技術や看護器械・用具の開発、QOLの向上に向けた環境の提案、快適な職場や住まい、高齢者に優しい環境などの研究成果を発信する。

(2)手段・方法

1)第20回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会の開催

平成24年9月1日(土)にかながわ県民センターにおいて神奈川県立保健福祉大学の水戸優子教授が主催し、第20回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会を開催する予定である。一般演題10題を目標に部会員に呼びかけ、参加を促す。

2)第21回システム連合大会への参加

第21回システム連合大会幹事会に看護人間工学部会からも引き続き参加する。部会員に大会での演題発表、参加を呼びかける。

3)日本人間工学会誌に部会から論文を投稿するよう呼びかける。

4)日本人間工学会第53回大会に参加するよう呼びかける。

5)看護人間工学研究誌第13巻(20周年記念誌)を発行(平成24年3月)し、部会員に送付する。

6)看護人間工学部会のホームページの英語版を含めて内容を充実させる。

(3)期待される成果

1)第20回看護人間工学部会 総会・研究会への発表、参加者を昨年より増やす。

2)日本人間工学会第53回大会、第21回システム連合大会への発表、参加人数を増やす。

3)看護人間工学部会、人間工学会への入会者を増やす。

4)部会員による「人間工学」、「看護人間工学研究誌」の投稿を増やす。

4-5. 情報社会人間工学研究部会

{ 部会長：平沢 尚毅 }

<H21.4.1～5年以内>

(1)平成24年度研究部会テーマ

今年度のテーマとして、昨年度の展望を受けて、「医療システムにおける情報通信技術の応用に対する人間工学の可能性と課題」について探求してゆく。

(2)活動内容(手段・方法)

1)NPO法人HCTMリサーチセンターとのシンポジウムの協賛

医療システムにおける情報通信技術に対する人間工学の応用に関するシンポジウムを開催する。具体的には、

ヘルスケア技術と組織経営に関する研究を推進している NPO 法人 HCTM リサーチセンターとの協賛を検討する。

2) 出版計画

部会の成果を出版する計画を今年度も継続して検討する。そのために、研究部会のこれまでの実績を整理する。

3) 部会運営の方法に関する検討

部会運営を円滑に実施するためにの情報環境を検討する。それによって、研究会部会の審議を効率的に進める。

(3) 期待される成果

安全、安心な社会を復興するための社会の情報技術基盤のあり方を構想するにあたり、人間工学のアプローチがどこまで貢献できるかを考察する。それによって、これまで以上に、政策へ提言できる可能性が大きくなる。

4-6. 聴覚コミュニケーション部会

{ 部会長: 江袋 林蔵 }

<H21.4.1~5年以内>

(1) テーマ 人間工学における聴覚研究のミッション

概要 平成 24 年度は、第 2 会期第 4 年次に当たる。Ergonomics の分野における聴覚を中心とした独自の研究領域の探索を具体的に考えた第 2 会期・第 3 年度の活動に続き、引き続き既成学会の活動に倣いつつ、アゴノミクス研究分野における独自の領域開拓を図ることは平成 24 年度も変わらない。

(2) 聴覚研究のミッション研究の手段

- 1) 研究会の開催・シンポジウムの開催・JES 内の他部会および他学会との交流
- 2) 幹事会の開催
- 3) ニュースレターの発行

(3) 方法

平成 23 年度展望を踏まえ前年度に準じて以下の計画を立案中である。

- 1) JES 第 53 回大会でのシンポジウムの開催
- 2) 第 6 回 AEG 研究会の開催
- 3) 日本音響学会聴覚研究会との第 8 回研究会共催
- 4) システム大会部会での聴覚・視覚セッションの開催
- 5) Interspeech における論文の reviewing の貢献、特に、Ergonomics 分野に関わる論文の閲読を Program Committee に要請している。
- 6) ネットを通じての幹事会の開催、ニュースレターの発行、

(4) 期待される成果

前年度の成果を踏まえ、内外における研究者情報交流の促進により聴覚研究の Ergonomics 領域での位置づけを更に明らかにしたいと考える。新たな展開として Interspeech 2012 からの Positive な対応を期待したいところである。

4-7. 安全人間工学研究部会

{ 部会長: 芳賀 繁 }

<H22.4.1~5年以内>

(1) 活動目的

安全人間工学研究部会は、安全に関わる人間工学の研究の情報交換と、様々な分野の安全研究者、実践者と問題点を討議し、広くその成果を学会員ならびに社会に広めることを目的として活動を行う。

(2) 活動内容

- 1) 日本認知心理学会安全心理学研究部会との共催で、研究会を 5 回程度東京で開催する。
- 2) 首都圏以外の地域でも 2 回程度研究会を開催する。
- 3) 安全人間工学委員会が企画する日本学術会議安全工学シンポジウムのオーガナイズド・セッションに協力する。

4-8.3D 人間工学研究部会

{ 部会長:河合 隆史 }

<H22.6.1~5年以内>

(1)目的

近年の立体(3D)映画の世界的な流行に伴い、その波及効果として3Dテレビや3Dゲーム、3Dスマートフォンなどが、急速に家庭に入ってきている。しかしながら、3Dの人間工学的な側面、例えば視聴に伴う疲労をはじめ、長時間・長期間の利活用による影響や、年齢層といったユーザの属性との関連など、未知な点が多い。そこで本研究部会では、ユーザの観点による3D研究の情報共有や、関連する多様な分野の研究者や実務者との交流・討議などを通して、その成果を学会員および広く社会へ還元することを目的として、平成22年度より活動を推進している。

(2)手段・方法・期待される成果

平成23年度に引き続き、コンスタントに研究会(3回以上のセミナー、シンポジウムなど)を開催し、当該分野の最新の知見を共有する場を形成する。平成24年度は、3Dコンテンツの制作と応用、特に3Dのメリットに関する議論の拡大を目標とし、セミナーやシンポジウムを企画していく。これにより、3Dの人間工学的な要件に関するソリューションを導出し、安全かつ快適な3Dの普及に貢献していくことが期待される。

4-9.医療安全研究部会

{ 部会長:土屋 文人 }

<H24.4.1~5年以内>

(1)活動テーマ

我が国における医療安全への人間工学分野の研究及び関係者に対する啓発活動は、この10年余の間に、医療機関や関連企業及び行政を含め定着しつつある。しかしながら医療政策のまずさから医療崩壊が発生し、慢性化した人手不足に起因したエラー、あるいはIT導入によるコンピュータシステムとのインターフェースのまずさに起因したエラーの発生等、医療は極めて厳しい環境下におかれている。人間工学的な研究も全体的には増加しているが、未だ基盤整備段階にあるといえる。昨年度医薬品の私用の安全をテーマとしたこの分野における人間工学的研究の実態を示したが、今年度は対象を拡大し、製薬企業のみならず医薬品の包装を行っている印刷会社を含めて「医療分野における安全文化の定着化」を目標に、医療機関や関連企業に向けた啓発活動を行う予定である。

(2)手段・方法

1)医薬品関係

日本病院薬剤師会とも連携して医薬品分野における人間工学的研究の普及等を目指した講習会等の開催を行う。今年度は特に後発メーカーに対して啓発活動を行うことにより、人間工学的配慮がされた製品の普及を図る。

2)医療機器関係

医薬品に対して遅れが目立つ医療機器の添付文書等の情報提供資料に関する人間工学研究の支援の方策について検討を行うとともに、可能であれば医療機器関係企業への講習会等の開催を行いたい。

(3)期待される成果

医薬品企業における人間工学の認知度は二極化の傾向にある。我が国の医療政策上後発品使用推進が図られていることから、後発医薬品メーカーを中心に人間工学的視点の重要性の啓発により、各種工夫された製品が普及することが考えられる。これにより、結果的に当該分野に関心の薄い先発メーカーも人間工学的検討を加えざるを得なくなると思われる。

診療報酬上の見直しにより、病院については安全文化の定着は見られるものの、依然として厳しい環境にある医療の世界において、医薬品や医療機器の製品の改善等による医療スタッフへの側面支援を図る。

4-10. 衣服人間工学部会

{ 部会長：高部 啓子 }

<H24.4.1～5年以内>

(1) 研究テーマ

平成24年度より「グリーンファッションに関する研究」をテーマに活動を開始することとなった。地球規模での温暖化、資源の枯渇などの環境問題、節電対策が問題視されている。これらに鑑み、衣服の分野から着装のあり方、衣服の構造・デザイン、衣服材料の使い方などについて環境問題を視野に入れた研究活動、啓蒙活動を進めていく予定である。また若手人材の育成も念頭に置き、勉強会や見学会なども開催していく予定である。

(2) 例会の開催 年2～3回程度開催予定。

(3) 期待される成果

引き続き、大学・学校関係者だけでなく、アパレル産業など幅広く部会への参加を呼びかける。衣服人間工学の現状をとらえ、最新の研究などの情報収集や勉強会を行い、情報発信することで、アパレル産業における衣服設計生産の現場で環境問題を視野に入れた衣服人間工学が活用され普及することが期待される。

4-11. 触覚インタラクション研究部会

{ 部会長：小谷 賢太郎 }

<H24.4.1～5年以内>

(1) 研究テーマ

本研究部会は、人間の触覚を機器やシステムに効果的に活かすことを目指しており、部会活動を通して国際交流を進めることにも注力している。今後は、特に国際会議において触覚研究のネットワークを広げ、この分野におけるプレゼンスを世界に示していきたいと考えている。

(2) 手段・方法

今年度は体制を一新し、国内会議などの場を利用して、新たな部会員の加入を促進していきたいと考えている。また、具体的な活動目標として、以下2点を挙げる。

1) 日本人間工学会大会、及び各支部会大会での企画セッション

2) ISOの規格策定に関する協力と情報収集

H24年度の体制

部会長：小谷賢太郎（関西大学）

幹事：中西美和（慶應義塾大学）

(3) 期待される成果

上記の部会活動を通して、触覚インタラクション研究における産学連携の機会を、積極的に提供していきたい。また、ISOにおける関連規格について情報収集することによって、今後、我が国が主導的に本分野における研究活動を進められる環境を整えていくつもりである。

4-12. システム大会部会

{ 部会長：衛藤 憲人 }

(1) 本会の目的

システム部会は、人間をシステム論的立場から研究する部会であり、毎年3月中旬に卒研究生を中心に研究成果を発表している。卒研究生は、日本人間工学会全国大会（毎年6月開催）や支部大会開催の時期ではまだ研究成果がまとまっていない状態なので、3月中旬に開かれる本部会は、社会に巣立つ卒研究生にとって重要な発表の場である。本部会の発表会は「システム大会」と称し、すでに20回開催されている。3日間の開催予定で、学生や教員が他大学の学生、教員や研究者と議論ができるため学生達に好評である。

(2)活動の内容

平成 23 年度（第 20 回大会）は首都大学東京秋葉原キャンパスにて規模を大きくして開催した。24 年度も同様に開催し、学生を初めとする若い研究者、研究者の卵を人間工学に興味をもってもらい、日本人間工学会会員にすべく努力する予定である。そのために、数回の幹事会（教員、研究者）と3月中旬の第 21 回人間工学システム大会を予定している。

V. 第3期代議員及び役員選挙報告 (平成24年社員総会～平成26年社員総会)

【理事長 1名】

青木 和夫

【副理事長 1名】

酒井 一博

(五十音順)

【理事 27名】

青木 和夫	阿久津 正大	榎原 毅	大内 啓子	大久保 堯夫
大須賀 美恵子	河合 隆史	北村 正晴	小谷 賢太郎	斎藤 真
酒井 一博	酒井 正幸	三林 洋介	津久井 一平	土屋 和夫
徳田 哲男	芳賀 繁	福田 康明	堀江 良典	松岡 敏生
三宅 晋司	村田 厚生	森本 一成	矢口 博之	横山 真太郎
吉武 良治	和田 親宗			

【監事 2名】

赤松 幹之 四宮 孝史

【代議員 178名】

青木 和夫	青木 洋貴	赤松 幹之	阿久津 正大	荒井 隆輔
有馬 正和	飯田 健夫	飯田 裕康	池浦 良淳	池上 徹
石橋 基範	石原 恵子	石原 茂和	石山 泰弘	泉 博之
伊藤 謙治	井上 馨	井上 容子	今田 葉子	井村 尚久
臼井 伸之介	宇土 博	梅室 博行	榎原 毅	大内 啓子
大久保 堯夫	大須賀 美恵子	大竹 哲夫	大塚 彰	大西 範和
大箸 純也	大橋 智樹	大平 肇子	岡田 明	岡田 有策
岡本 恵里	小川 鑛一	荻須 隆雄	尾崎 宏樹	小澤 幸夫
落合 信寿	香川 スミ子	影山 有佳倫	加藤 隆康	加藤 麻樹
金沢 トシ子	狩川 大輔	河合 隆史	川野 常夫	菊地 俊紀
菊地 直也	岸田 孝弥	北島 洋樹	北原 照代	北村 正晴
國澤 尚子	久保 博子	久保 雅義	久保田 富夫	神代 雅晴
栗谷川 幸代	黒川 隆夫	呉 景龍	小泉 綾香	鴻巣 努
小谷 賢太郎	小長谷 百絵	小林 大二	小松原 明哲	近藤 雄二
斎藤 真	西連地 利己	酒井 一博	酒井 正幸	坂下 哲也
佐久間 航	佐々木 正人	佐々木 美奈子	澤 貢	澤井 映美
三林 洋介	篠原 一光	四宮 孝史	澁谷 智久	渋谷 雄
庄司 卓郎	城内 博	申 紅 仙	神宮 英夫	新村 洋未
新家 敦	鈴木 玲子	鈴木 一弥	瀬尾 尚聡	外山 みどり
埴田 和史	高橋 信	竹内 晴彦	武岡 元	竹ノ内 敏孝
嵩原 哲史	田島 一美	田中 敬司	田中 勇治	田宮 高信
津久井 一平	辻 敏夫	土屋 和夫	露木 章史	土居 俊一
戸上 英憲	徳田 哲男	栃原 裕	富田 明美	鳥居塚 崇
中西 美和	西内 信之	西川 一男	西田 直子	西山 勝夫
新田 収	農沢 隆秀	芳賀 繁	萩原 啓	長谷川 徹也
久本 誠一	福田 康明	福本 正勝	藤田 悦則	藤原 義久
細川 敏幸	細田 聡	堀内 邦雄	堀江 良典	本多 薫
増田 美恵子	松井 真治	松岡 敏生	松田 文子	松波 晴人
松原 行宏	三上 功生	水垣 州子	水垣 信威千	水野 基樹
水野 有希	三戸 秀樹	三宅 晋司	向井 希宏	村井 康二
村木 里志	村田 厚生	村本 淳子	村山 陵子	茂木 伸之
森口 喜代	森本 一成	八木 昭宏	八木 佳子	矢口 博之
安河内 義明	柳堀 朗子	山口 俊憲	山田 クリス 孝介	山本 栄
山本 まどか	横井 元治	横井 郁子	横森 求	横山 清子
横山 真太郎	吉川 徹	吉田 信彌	吉武 良治	吉成 哲
吉村 真由美	和田 隆広	渡邊 裕		

以上

一般社団法人日本人間工学会 2012 年度 委員会/担当等一覧

委員会/担当名	担当・委員長・副委員長等	活動のポイント等
常設委員会・担当（長期的及び継続的に実施する事業）		
総務担当	堀江良典、大内啓子	学会運営の執行管理、事務局機能の強化の検討
財務担当	三林洋介、三宅晋司	財務管理と学会財政に関する中長期計画等の提案
広報委員会	榎原 毅、松田文子	HP の運用推進、GPDB による実践事例公開、人間工学の社会発信
編集委員会	大須賀美恵子、榎原 毅	学会誌の編集と発行、電子投稿・査読システムの構築
国際協力委員会	小谷賢太郎、鳥居塚崇	国際人間工学連合・日韓共同シンポジウム等、国際協力活動の推進
ISO/TC159 国内対策委員会	横井孝志、吉武良治	ISO/TC159 に関わる規格の提案・作成・審議、JIS 規格案作成と普及
表彰委員会	阿久津正大、矢口博之	表彰制度の見直しと整備、各賞受賞候補者の選考、国際表彰の推進
安全人間工学委員会	芳賀 繁、首藤由紀	安全に関わる学会活動の提言等、安全工学シンポジウム運営への参加
学術担当	斉藤 進、青木和夫	日本学術会議との連携、横幹連合への役員派遣、科研費の細目要望
企画担当	河合隆史、青木和夫	公開講座の企画、大会における学会企画シンポジウムの企画等
人間工学専門家認定機構	吉武良治、福住伸一	認定・再認定実施、講演会・セミナー等の開催、GPDB への協力
臨時委員会・担当（目標と期間を定め、成果を組織的に活用する事業）		
IEA 担当	藤田祐志、河合隆史	IEA ウェブサイトのリニューアルおよび運営にかかわる支援
学会組織検討委員会	酒井一博	学会組織と定款の検討、役員の任期および再任制限に関する検討
ウェブアクセシビリティ支援委員会	青木和夫	IEA ウェブサイトのリニューアルの実施とアクセシビリティ評価
企業の間人工学教育のあり方検討委員会	酒井一博、易 強	企業を対象とした人材育成の課題や需要の調査、活動の総括報告
第 53 回大会担当	栃原 裕、村木里志	2012 年 6 月 9～10 日に大会開催
第 54 回大会担当	堀江良典、鳥居塚崇	2013 年 6 月 1～2 日に大会開催